

## 基本計画書

基本計画書									
事項	記入欄							備考	
計画の区分	学部の学科の設置								
フリガナ設置者	ガクコホジツン トキョウシヨウダイバク 学校法人 東京女子大学								
フリガナ大学の名称	トキョウシヨウダイバク 東京女子大学								
大学本部の位置	東京都杉並区善福寺二丁目6番1号								
大学の目的	東京女子大学は、キリスト教を教育の根本方針となし、学問研究及び教育の機関として、女子に高度の教養を授け、専門の学術を教授研究し、もって真理と平和を愛し人類の福祉に寄与する人物を養成することを目的とする。								
新設学部等の目的	社会コミュニケーション学科は、社会学、メディア情報、共生社会を横断した学びを通して、既存の枠組みに縛られない柔軟な思考力を持ち、多様な情報の山から重要なものを取捨選択するとともに自らが価値ある情報を発信する能力を身に付け、よりよい共生の構築や社会課題の解決に貢献できる人物の育成を目的とする。								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学員	収容定員	学位	学位の分野	開設時期及び開設年次	所在地
	現代教養学部 社会コミュニケーション学科 計	4	145 145	— —	580 580	学士（教養）	社会学・社会福祉学関係	令和7年4月 第1年次	東京都杉並区善福寺二丁目6番1号
同一設置者内における変更状況（定員の移行、名称の変更等）	令和7年4月 現代教養学部 人文学科 [定員増] (15) (令和7年4月) 国際社会学科 (120) (令和6年4月届出予定) 経済経営学科 (155) (令和6年4月届出予定) 心理学科 (80) (令和6年4月届出予定) 数理科学科 → 情報数理科学科 [定員減] (Δ1) (令和7年4月名称変更予定)  令和7年4月学生募集停止 現代教養学部 国際英語学科 (廃止) (Δ100) 国際社会学科 (廃止) (Δ284) 心理・コミュニケーション学科 (廃止) (Δ200)								
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
	現代教養学部 社会コミュニケーション学科	講義	演習	実験・実習	計	124単位			
		166科目	94科目	14科目	274科目				
学部等の名称		基幹教員					助手	基幹教員以外の教員 (助手を除く)	
新	現代教養学部 国際社会学科	教授 7 (7)	准教授 4 (4)	講師 0 (0)	助教 0 (0)	計 11 (11)	1 (1)	231 (148)	令和6年4月届出済み（予定）
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	7 (7)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	11 (11)	/	/	大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 7人
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（a～b）	7 (7)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	11 (11)			
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（a～d）	7 (7)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	11 (11)			

設	現代教養学部 経済経営学科	11 (10)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	13 (12)	0 (0)	223 (139)	令和6年4月届出済み(予定)						
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	11 (10)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	13 (12)	/	/	大学設置基準別表第一に定める 基幹教員数の四分の三の数 9人						
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(aに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)									
	小計(a～b)	11 (10)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	13 (12)									
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(a又はbに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)									
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(a、b又はcに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)									
	計(a～d)	11 (10)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	13 (12)									
	現代教養学部 心理学科	8 (8)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	9 (9)				0 (0)	218 (145)	令和6年4月届出済み(予定)			
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	8 (8)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	9 (9)				/	/	大学設置基準別表第一に定める 基幹教員数の四分の三の数 5人			
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(aに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)									
	小計(a～b)	8 (8)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	9 (9)									
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(a又はbに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)									
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(a、b又はcに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)									
	計(a～d)	8 (8)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	9 (9)									
	現代教養学部 社会コミュニケーション学科	7 (7)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	12 (12)							1 (1)	231 (130)	令和6年4月届出済み(予定)
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	7 (7)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	12 (12)							/	/	大学設置基準別表第一に定める 基幹教員数の四分の三の数 8人
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(aに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)									
	小計(a～b)	7 (7)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	12 (12)									
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(a又はbに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)										
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(a、b又はcに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)										
計(a～d)	7 (7)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	12 (12)										
計	33 (32)	12 (12)	0 (0)	0 (0)	45 (44)	2 (2)	— (—)								
分															

既	現代教養学部 人文学科	24 (29)	7 (7)	1 (1)	0 (0)	32 (37)	0 (1)	338 (338)	大学設置基準別表第一に定める 基幹教員数の四分の三の数 8人
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、主要授業科目を担当するもの	24 (29)	7 (7)	1 (1)	0 (0)	32 (37)			
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（a～b）	24 (29)	7 (7)	1 (1)	0 (0)	32 (37)			
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当す るもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、か つ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（a～d）	24 (29)	7 (7)	1 (1)	0 (0)	32 (37)			
	現代教養学部 情報数理科学科	11 (11)	0 (0)	3 (3)	0 (0)	14 (14)	0 (2)	245 (245)	令和6年5月名称変更届出（予定）
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、主要授業科目を担当するもの	11 (11)	0 (0)	3 (3)	0 (0)	14 (14)			大学設置基準別表第一に定める 基幹教員数の四分の三の数 11人
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（a～b）	11 (11)	0 (0)	3 (3)	0 (0)	14 (14)			
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当す るもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、か つ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（a～d）	11 (11)	0 (0)	3 (3)	0 (0)	14 (14)			
	情報処理センター	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (2)	4 (4)	
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、主要授業科目を担当するもの	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（a～b）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当す るもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、か つ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（a～d）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
比較文化研究所	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	16 (16)		
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、主要授業科目を担当するもの	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
小計（a～b）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当す るもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、か つ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
計（a～d）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				

女性学研究所		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	14 (14)
分	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	小計（a～b）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	計（a～d）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
計		35 (40)	7 (7)	4 (4)	0 (0)	46 (51)	3 (6)	— (—)
合 計		68 (72)	19 (19)	4 (4)	0 (0)	91 (95)	5 (8)	— (—)
職 種		専 属			そ 他			計
事 務 職 員		92 (92) 人			37 (37) 人			129 (129) 人
技 術 職 員		4 (4)			2 (2)			6 (6)
図 書 館 職 員		5 (5)			0 (0)			5 (5)
そ の 他 の 職 員		0 (0)			0 (0)			0 (0)
指 導 補 助 者		0 (0)			0 (0)			0 (0)
計		101 (101)			39 (39)			140 (140)
校 地 等	区 分	専 用	共 用		共用する他の学校等の専用			計
	校 舎 敷 地	89,230㎡	0㎡		0㎡			89,230㎡
	そ の 他	5,303㎡	0㎡		0㎡			5,303㎡
	合 計	94,533㎡	0㎡		0㎡			94,533㎡
校 舎		専 用	共 用		共用する他の学校等の専用			計
		23,482.58㎡ (23,482.58㎡)	0㎡ (0㎡)		0㎡ (0㎡)			23,482.58㎡ (23,482.58㎡)
教 室 ・ 教 員 研 究 室		教 室	113室		教 員 研 究 室			117室
								大学全体
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕	電子図書 〔うち外国書〕	学術雑誌 〔うち外国書〕	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	機械・器具 点	標本 点	学科単位での特定が 不能なため、大学全 体の数
	社会コミュニケーション学科	883,509 [440,461] (872,043 [438,685])	284,298 [279,878] (283,266 [279,308])	14,406 [10,159] (14,406 [10,159])	8,620 [8,555] (8,620 [8,555])	4,143 (4,143)	0 (0)	
	計	883,509 [440,461] (872,043 [438,685])	284,298 [279,878] (283,266 [279,308])	14,406 [10,159] (14,406 [10,159])	8,620 [8,555] (8,620 [8,555])	4,143 (4,143)	0 (0)	
スポーツ施設等		スポーツ施設 — ㎡		講 堂 1,336㎡		厚生補導施設 1,688㎡		大学全体
経 費 の 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次
	教員1人当り研究費等		480千円	480千円	480千円	480千円	—千円	—千円
	共同研究費等		5,550千円	5,550千円	5,550千円	5,550千円	—千円	—千円
	図書購入費	100,630千円	100,630千円	100,630千円	100,630千円	100,630千円	—千円	—千円
	設備購入費	4,620千円	4,620千円	4,620千円	4,620千円	4,620千円	—千円	—千円
	学生1人当り納付金		第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次
		1,350千円	1,162千円	1,174千円	1,186千円	—千円	—千円	
学生納付金以外の維持方法の概要		私立大学等経常費補助金、資産運用収入、雑収入等						

大学等の名称	東京女子大学								所在地				
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	取容定員	学位又は称号	取容定員充足率	開設年度					
既設大学等の状況	現代教養学部	年	人	年次人	人					東京都杉並区善福寺二丁目6番1号	※令和4年度入学定員減(25人) ※令和6年度入学定員減(30人)		
	国際英語学科	4	100	—	515	学士(教養)	1.06	平成30年度					
	人文学科	4	205	—	815	学士(教養)	1.11	平成21年度	※令和4年度入学定員増(5人)				
	国際社会学科	4	284	—	1,122	学士(教養)	1.10	平成21年度	※令和4年度入学定員増(14人)				
	心理・コミュニケーション学科	4	200	—	795	学士(教養)	1.08	平成30年度	※令和4年度入学定員増(5人)				
	人間科学科	4	—	—	—	学士(教養)	—	平成21年度	※平成30年度より学生募集停止(人間科学科)				
	数理科学科	4	71	—	283	学士(理学)	1.02	平成21年度	※令和4年度入学定員増(1人)				
	計		860	—	3,530		1.09						
	東京女子大学大学院												
	人間科学研究科												
	(博士前期課程)												
	人間文化科学専攻	2	22	—	44	修士(人間文化科学)	0.47	平成24年度					
	人間社会学専攻	2	20	—	40	修士(人間社会学)	0.92	平成24年度					
	計		42	—	84								
	(博士後期課程)												
	人間文化科学専攻	3	4	—	12	博士(人間文化科学)	0.66	平成17年度					
	生涯人間科学専攻	3	5	—	15	博士(生涯人間科学)	0.06	平成17年度					
	計		9	—	27								
	理学研究科												
	(博士前期課程)												
数理科学専攻	2	6	—	12	修士(理学)	0.83	昭和46年度	※令和6年度より名称変更					
(博士後期課程)													
数理科学専攻	3	3	—	9	博士(理学)	0.22	平成17年度	※令和6年度より名称変更					
計		9	—	21									
	<p>名称：東京女子大学図書館 目的：東京女子大学における教育及び研究に対する図書館の使命を十分に果たすため、本学における図書館資料の収集、管理及び効果的な運用を図るとともに、学術情報の提供に努める。 所在地：東京都杉並区善福寺二丁目6番1号 設置年月：昭和23年4月 規模等：5,762.86㎡(床面積)</p> <p>名称：東京女子大学比較文化研究所 目的：人文・社会・自然の諸領域における比較文化的研究及び日本キリスト教史・キリスト教文化に関する研究と資料の収集を行い、併せて国内外の学術交流に貢献する。 所在地：東京都杉並区善福寺二丁目6番1号 設置年月：昭和29年6月 規模等：193.11㎡(床面積)</p> <p>名称：東京女子大学女性学研究所 目的：真に平等な社会の実現をめざし、女性学・ジェンダーの研究及びそれらの教育の発展に資する国内外共同研究の場として設置され、(1)女性学・ジェンダー研究の促進、(2)女性学・ジェンダー研究の教育的実践、(3)女性学・ジェンダー研究の発展を目的とした国内外における研究交流、(4)アジア諸国における女性学・ジェンダー研究ネットワークの形成、(5)グローバル社会における女性学・ジェンダー研究の推進を目的として活動する。 所在地：東京都杉並区善福寺二丁目6番1号 設置年月：平成2年4月(昭和51年比較文化研究所内に女性学センターが併設され、平成2年4月に独立) 規模等：199.29㎡(床面積)</p>												

<p>附属施設の概要</p>	<p>名称：東京女子大学情報処理センター  目的：情報処理活動を通じ東京女子大学の教育及び研究の向上並びに事務処理の円滑な運営に資する。  所在地：東京都杉並区善福寺二丁目6番1号  設置年月：昭和63年11月（昭和45年3月設置電子計算室を改名）  規模等：347.04㎡（床面積）</p> <p>名称：東京女子大学心理臨床センター  目的：東京女子大学大学院人間科学研究科人間社会科学専攻臨床心理学分野の学生の臨床実習及び臨床心理学に関する研修、研究等を行う。さらに、地域社会・地域住民等の要請に応じて心理臨床活動を展開し、必要に応じて学内外の諸機関と協働し、地域社会の成長・発展に貢献し、本学の教育・研究の推進に寄与する。  所在地：東京都杉並区善福寺二丁目6番1号  設置年月：平成21年4月  規模等：－</p> <p>名称：東京女子大学英語センター  目的：グローバル社会に対応した国際共通語としての英語力を養成するために、全学横断的な英語運用能力の向上を図る教育活動の発展及び研究を継続的に行う。  所在地：東京都杉並区善福寺二丁目6番1号  設置年月：令和4年4月  規模等：173.26㎡（床面積）</p> <p>名称：東京女子大学AI・データサイエンス教育研究センター  目的：数理・データサイエンス・AI教育及び研究を確立・強化し、先端技術の進歩にともなう急激な社会変化に対応し、その理解と必要な基礎力を涵養するとともに当該分野・技術の研究・応用を牽引してゆく人材の育成に資する。  所在地：東京都杉並区善福寺二丁目6番1号  設置年月：令和4年4月  規模等：－</p>	
----------------	---	--

(注)

- 1 共同学科の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」、「新設学部等の目的」、「新設学部等の概要」、「教育課程」及び「新設分」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 2 「新設分」及び「既設分」の備考の「大学設置基準別表第一イ」については、専門職大学にあつては「専門職大学設置基準別表第一イ」、短期大学にあつては「短期大学設置基準別表第一イ」、専門職短期大学にあつては「専門職短期大学設置基準別表第一イ」にそれぞれ読み替えて作成すること。
- 3 「既設分」については、共同学科等に係る数を除いたものとする。
- 4 私立の大学の学部又は短期大学の学科の取容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「教室・教員研究室」、「図書・設備」及び「スポーツ施設等」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「校地等」、「校舎」、「教室・教員研究室」、「図書・設備」、「スポーツ施設等」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 6 「教育課程」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 7 空欄には、「－」又は「該当なし」と記入すること。

## 組織の移行表

令和 6(2024)年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和 7(2025)年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
<b>東京女子大学</b>				<b>東京女子大学</b>				
<b>現代教養学部</b>				<b>現代教養学部</b>				
国際英語学科	100	-	400		<u>0</u>	-	<u>0</u>	令和 7 年 4 月学生募集停止
人文学科	205	-	820	人文学科	<u>220</u>	-	<u>880</u>	定員変更(15)
国際社会学科	284	-	1136		<u>0</u>	-	<u>0</u>	令和 7 年 4 月学生募集停止
				<u>国際社会学科</u>	<u>120</u>	-	<u>480</u>	学科の設置(届出)
				<u>経済経営学科</u>	<u>155</u>	-	<u>620</u>	学科の設置(届出)
心理・コミュニケーション学科	200	-	800		<u>0</u>	-	<u>0</u>	令和 7 年 4 月学生募集停止
人間科学科	-	-	-	心理学科	<u>80</u>	-	<u>320</u>	学科の設置(届出)
				<u>社会コミュニケーション学科</u>	<u>145</u>	-	<u>580</u>	学科の設置(届出)
数理科学科	71	-	284	<u>情報数理科学科</u>	<u>70</u>	-	<u>280</u>	名称変更、定員変更(Δ1)
計	860	-	3440	計	<u>790</u>	-	<u>3160</u>	
<b>東京女子大学大学院</b>				<b>東京女子大学大学院</b>				
<b>人間科学研究科</b>				<b>人間科学研究科</b>				
人間文化科学専攻 (博士前期課程)	22	-	44	人間文化科学専攻 (博士前期課程)	22	-	44	
人間文化科学専攻 (博士後期課程)	4	-	12	人間文化科学専攻 (博士後期課程)	4	-	12	
人間社会科学専攻 (博士前期課程)	20	-	40	人間社会科学専攻 (博士前期課程)	20	-	40	
生涯人間科学専攻 (博士後期課程)	5	-	15	生涯人間科学専攻 (博士後期課程)	5	-	15	
<b>理学研究科</b>				<b>理学研究科</b>				
数理科学専攻 (博士前期課程)	6	-	12	数理科学専攻 (博士前期課程)	6	-	12	
数理科学専攻 (博士後期課程)	3	-	9	数理科学専攻 (博士後期課程)	3	-	9	
計	60	-	132	計	60	-	132	

教育課程等の概要																		
（現代教養学部社会コミュニケーション学科）																		
科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考			
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹（助手を除く）教員		
学科学目	入門	社会コミュニケーション概論	1前	○	2			○			1	3			1	オムニバス		
	基盤講義	小計（1科目）	—	—	2			—			1	3	0	0	0	1		
学科学目	基盤講義	社会学のあゆみI	1・2・3前		2			○			1					*1		
		社会学のあゆみII	1・2・3後		2			○			1					*1		
		メディアコミュニケーション概論	1・2・3後		2			○				1				*1		
		情報デザイン概論	1・2・3後		2			○				1				*1		
		共生社会概論	1・2・3後		2			○				1				*1		
		社会調査法入門A	1・2・3前		2			○								1	*1	
		社会調査法入門B	1・2・3後		2			○								1	*1	
		小計（7科目）	—	—	14			—				1	3	0	0	0	1	
		学科学目	発展講義 （学科共通）	社会データサイエンス入門	2・3・4前	○	2			○			1					*4
				質的研究法	2・3・4後			2			○						1	*2 *4
				社会コミュニケーション先端トピックA	1・2・3・4前			2			○						1	*3 *4
				社会コミュニケーション先端トピックB	1・2・3・4後			2			○		1					*3 *4
		学科学目	（社会学）	現代社会論	2・3・4前		2			○			1					*4 隔年
				日本社会論	2・3・4後		2			○			1					*4 隔年
家族社会学	2・3・4前				2			○			1					*4		
ケアの社会学	2・3・4後				2			○			1					*4		
地域社会学	2・3・4前				2			○						1		*4		
都市社会学	2・3・4後				2			○						1		*4		
デモクラシーの社会学	2・3・4前				2			○				1				*4 隔年		
シティズンシップの社会学	2・3・4後				2			○				1				*4 隔年		
労働社会学	2・3・4前				2			○							1	*4		
グローバル化と労働	2・3・4後				2			○							1	*4		
ジェンダーとセクシュアリティの社会学	2・3・4後				2			○							1	*4		
文化社会学	2・3・4後				2			○							1	*4		
ライフコースの社会学	2・3・4後				2			○							1	*4		
福祉社会学	2・3・4前				2			○							1	*4		
臨床社会学	2・3・4前				2			○							1	*4		
国際社会学	2・3・4前				2			○				1				*4		
社会問題の社会学	2・3・4後				2			○				1				*4		
情報社会論	2・3・4後				2			○							1	*4		
学科学目	（メディア情報）	メディア史	2・3・4後		2			○							1	*4		
		メディア社会論	2・3・4前		2			○							1	*4		
		グローバルメディア	2・3・4後		2			○							1	*4		
		政治とメディア	2・3・4後		2			○							1	*4		
		ジャーナリズムと現代社会	2・3・4前		2			○							1	*4		
		リスクコミュニケーション	2・3・4前		2			○					1			*4		
		広告論	2・3・4後		2			○					1			*4		
		メディア文化論	2・3・4前		2			○				1				*4		
		ジェンダーとメディア	2・3・4後		2			○				1				*4		
		メディアとことば	2・3・4後		2			○							1	*4		
		ソーシャルメディアとコミュニティデザイン	2・3・4後		2			○				1				*4		
		ソーシャルメディアと現代社会	2・3・4前		2			○				1				*4		
		現代社会のサイバーセキュリティ	2・3・4前		2			○							1	*4		
		コミュニケーションとキャリア	2・3・4休		2			○							1	*4		
		デザイン思考I	2・3・4前		2			○							1	*4		
		デザイン思考II	2・3・4後		2			○							1	*4		
		デザイン心理A	2・3・4前		2			○				1				*4		
		デザイン心理B	2・3・4後		2			○				1				*4		
		ユーザ体験とユーザインターフェース	2・3・4前		2			○					1			*4		
		ユーザニーズ分析	2・3・4後		2			○					1			*4		
		ICTリテラシーA	2・3・4前		2			○					1			*4		
		ICTリテラシーB	2・3・4後		2			○							1	*4		
		マルチメディアと表現I	2・3・4前		2			○							1	*4		
		マルチメディアと表現II	2・3・4後		2			○							1	*4		
		Webでの情報表現	2・3・4後		2			○							1	*4		
		Media Literacy	2・3・4前・後		2			○							1	*4		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹(助手を除く教員)	
(共生社会と人間)	メディアと経済	2・3・4後			2		○			1							*4
	共生社会と人間行動(ダイバーシティ)	2・3・4前			2		○				1						*4
	共生社会と人間行動(インクルージョン)	2・3・4前			2		○										*4
	共生社会と心理(マクロ:集団・社会)	2・3・4後			2		○							1			*4
	共生社会と心理(ミクロ:個人・対人)	2・3・4前			2		○							1			*4
	共生社会と心理(文化)	2・3・4休			2		○							1			*4
	エイジングの心理学	2・3・4前			2		○			1							*4
	子どもと社会	2・3・4後			2		○							1			*4
	ダイバーシティとコミュニケーション	2・3・4後			2		○							1			*4
	対人コミュニケーション(ジェンダー・セクシュアリティ)	2・3・4前			2		○							1			*4
	対人コミュニケーション(家族・共同体)	2・3・4後			2		○							1			*4
	対人コミュニケーション(公共社会)	2・3・4前			2		○							1			*4
	小計(60科目)	-	-	2	118			-		6	5						26
	基盤演習	1年次演習(社会コミュニケーション)	1前	○	2			○		4	3						
2年次演習(社会コミュニケーション)		2前	○	2			○		3	2							5
社会データサイエンスA		2後	○	2			○		1	2						1	
社会データサイエンスB		3・4後			2		○		1	1							*2
社会コミュニケーション実習(実験法)		2・3・4前			2		○		1								*2
社会コミュニケーション実習(内容分析)		2・3・4前			2		○		1								*2
共生社会デザイン(ダイバーシティ)		2・3・4前			2		○							1			
共生社会デザイン(インクルージョン)		2・3・4後			2		○		1								
ユニバーサルデザインA		2・3・4前			2		○							1			
ユニバーサルデザインB		2・3・4後			2		○		1								
WebプログラミングI		2・3・4前			2		○							1			
WebプログラミングII		2・3・4後			2		○							1			
日本語データ分析I		2・3・4前			2		○							1			
日本語データ分析II		2・3・4後			2		○							1			
小計(14科目)	-	-	6	22			-		6	5						10	
発展演習	3年次演習(社会コミュニケーション)I	3前	○	2			○		6	5							3
	3年次演習(社会コミュニケーション)II	3後	○	2			○		6	5							3
	4年次演習(社会コミュニケーション)I	4前	○	2			○		6	5							3
	4年次演習(社会コミュニケーション)II	4後	○	2			○		6	5							3
	社会コミュニケーション実習I	3前			2		○		2	3							4
	社会コミュニケーション実習II	3後			2		○		2	3							4
小計(6科目)	-	-	8	4			-		6	5						5	
卒業論文	卒業論文	4通	○	8			○		6	5							3
	小計(1科目)	-	-	8			-		6	5							3
合計(89科目)				-	-	26	158	0	-		6	5					34
以下は全学共通カリキュラム等																	
知のかけはし科目	人文社会横断型A	1・2・3・4後	○		2		○			1						1	共同
	人文社会横断型B	1・2・3・4後	○		2		○									2	共同
	人文社会横断型C	1・2・3・4後	○		2		○									2	共同
	人文社会横断型D	1・2・3・4前	○		2		○									2	共同
	人文社会横断型E	1・2・3・4前	○		2		○			1						1	共同
	人文社会横断型F	1・2・3・4後	○		2		○			1						1	共同
	人文社会横断型G	1・2・3・4前	○		2		○									2	共同
	人文社会横断型H	1・2・3・4後	○		2		○									2	共同
	人文社会横断型I	1・2・3・4後	○		2		○									2	共同
	人文社会横断型J	1・2・3・4前	○		2		○									2	共同
	人文社会横断型K	1・2・3・4前	○		2		○									2	共同
	人文社会横断型L	1・2・3・4後	○		2		○									2	共同
	人文社会横断型M	1・2・3・4前	○		2		○									2	共同
	人文社会横断型N	1・2・3・4後	○		2		○				1					1	共同
	人文社会横断型O	1・2・3・4後	○		2		○									2	共同
	人文社会横断型P	1・2・3・4後	○		2		○									2	共同
	人文社会横断型Q	1・2・3・4前	○		2		○									2	共同
	人文社会横断型R	1・2・3・4後	○		2		○				1					1	共同
	人文社会横断型S	1・2・3・4後	○		2		○					1				2	共同
	人文社会横断型T	1・2・3・4後	○		2		○									2	共同
	人文社会横断型U	1・2・3・4前	○		2		○									2	共同
人文社会横断型V	1・2・3・4前	○		2		○				1					1	共同	
人文社会横断型W	1・2・3・4後	○		2		○									2	共同	
人文社会横断型X	1・2・3・4前	○		2		○				1					1	共同	
人文社会横断型Y	1・2・3・4前	○		2		○									2	共同	
人文社会横断型Z	1・2・3・4後	○		2		○									2	共同	
自然科学包含型A	1・2・3・4後	○		2		○									2	共同	
自然科学包含型B	1・2・3・4前	○		2		○									2	共同	
自然科学包含型C	1・2・3・4後	○		2		○									2	共同	
自然科学包含型D	1・2・3・4前	○		2		○									2	共同	
自然科学包含型E	1・2・3・4後	○		2		○			1						1	共同	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹(助手を除く教員)	
	自然科学包含型F	1・2・3・4後	○		2		○								2	共同	
	自然科学包含型G	1・2・3・4後	○		2		○								2	共同	
	自然科学包含型H	1・2・3・4後	○		2		○								2	共同	
	自然科学包含型I	1・2・3・4後	○		2		○								2	共同	
	小計 (35科目)	—	—		70		—			6	2	0			61		
女性の生きる力科目	挑戦するリベラルアーツ	1・2・3・4後			2		○				3				12	オムニバス	
	女性学・ジェンダーを学ぶ	1・2・3・4前・後			2		○								1		
	女性のキャリア形成	1・2・3・4前			2		○								1		
	女性と社会	1・2・3・4前・後			2		○								1		
	女性のウェルビーイング	1・2・3・4後			2		○								1		
	女性の起業	2・3・4前			2		○								1		
	女性のための金融リテラシー入門	1・2・3・4前・後			2		○								1		
	日本国憲法	1・2・3・4前・後			2		○								1		
	ケンブリッジ教養講座	2・3・4通			2		○								1		
	女性のウェルネス・身体運動	1前・後	○	1					○		1						
	からだの科学	2・3・4前				2		○							1		
	発育と発達	2・3・4前				2		○			1						
	栄養と健康	2・3・4後				2		○			1						
	女性の健康科学	2・3・4後				2		○							1		
	性と生命 (セクソロジー)	2・3・4後				2		○							1		
女性の心身コンディショニング	2・3・4後				2		○			1							
小計 (16科目)	—	—		1	28		—			1	3				21		
実践	スポーツA	2・3・4後			1				○						1		
	スポーツB	2・3・4後			1				○						1		
	スポーツC	2・3・4前			1				○						1		
	スポーツD	2・3・4前			1				○						1		
	フィジカルエクササイズA	2・3・4前			1				○						1		
	フィジカルエクササイズB	2・3・4前			1				○						1		
	フィジカルエクササイズC	2・3・4後			1				○						1		
	身体表現A	2・3・4前			1				○						1	隔年	
	身体表現B	2・3・4後			1				○						1		
	身体表現C	2・3・4前			1				○						1	隔年	
小計 (10科目)	—	—		10		—								10			
キリスト教	キリスト教入門 I	1前	○	2			○								3		
	キリスト教入門 II	1後	○	2			○								3		
	小計 (2科目)	—	—	4			—								3		
	キリスト教概論	2・3・4前			2		○								1		
	聖書の世界	2・3・4後			2		○								1		
	キリスト教と倫理	2・3・4前			2		○								1		
	キリスト教の歴史	2・3・4後			2		○								1		
	日本のキリスト教	2・3・4前			2		○								1		
	キリスト教の思想・文化	2・3・4後			2		○								1		
	キリスト教と諸宗教	2・3・4前			2		○								1		
	キリスト教と芸術	2・3・4後			2		○								1		
	キリスト教と音楽	1・2・3・4前			2		○								1		
キリスト教講義	2・3・4後			2		○								1			
小計 (10科目)	—	—		20		—								4			
P G l o b a l C i t i z e n s h i p	Integrated English A	1前			1				○						1		
	Integrated English B	1前			1				○						1		
	Integrated English C	1後			1				○						1		
	Integrated English D	1後			1				○						1		
	Global Studies Seminar A	1前			2				○						1		
	Global Studies Seminar B	1後			2				○						1		
	Global Liberal Arts A	2・3・4前			2				○						1		
	Global Liberal Arts B	2・3・4前			2				○						1		
	Study Abroad Preparatory English	2前			1				○						1		
	Post-SA Research Seminar	3後			2				○						1		
	Global Citizenship Workshop I	4前			2				○						1		
	Global Citizenship Workshop II	4後			2				○						1		
	SA-based Global English	2後・3前			4-17				○								
	小計 (13科目)	—	—		23-36		—								5		
	第一外国語科目	Academic Discussion Skills A	1前	○	1					○						12	
Academic Discussion Skills B		1後	○	1					○						12		
Academic Reading Skills A		1前	○	1					○						14		
Academic Reading Skills B		1後	○	1					○						14		
Academic Writing Skills I		1前	○	1					○						13		
Academic Writing Skills II		1後	○	1					○						13		
Exploring Content: Listening/Speaking A		2前	○	1					○						13		
Exploring Content: Listening/Speaking B		2後	○	1					○						13		
Exploring Content: Reading/Writing A		2前	○	1					○						17		
Exploring Content: Reading/Writing B		2後	○	1					○						17		
Presenting Research		2・3・4前・後			2				○						3		
Writing Research Papers		2・3・4前・後			2				○						4		
Media Literacy		2・3・4前・後			1				○						1		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹(助手を除く)教員
	English through Literature	2・3・4後			2			○							1	
	Topics in Language Study	2・3・4後			2			○							1	
	Topics in Arts and Sciences	2・3・4前			2			○							1	
	IELTS	1・2・3・4前・後			1			○							1	
	Business English	2・3・4前・後			1			○							1	
	Pronunciation	1・2・3・4前・後			1			○							2	
	英語音声学	1・2・3・4後			2			○							1	
	Extensive Reading	2・3・4後			1			○							1	
	Study Skills	1前			1			○							3	
	Intensive English	1・2・3・4通			2			○								
	日本語Ⅰ(入門)	1前			4			○							2	
	日本語Ⅱ(応用)	1後			4			○							2	
	小計(25科目)	—	—	10	28			—							63	
第二外国語科目	ドイツ語初級1	1前	○		2			○							3	
	フランス語初級1	1前	○		2			○							6	
	スペイン語初級1	1前	○		2			○							5	
	中国語初級1	1前	○		2			○							11	
	韓国語初級1	1前	○		2			○							9	
	ドイツ語初級2	1後	○		1			○							2	
	フランス語初級2	1後	○		1			○							3	
	スペイン語初級2	1後	○		1			○							3	
	中国語初級2	1後	○		1			○							7	
	韓国語初級2	1後	○		1			○							5	
	ドイツ語(読解)	2・3・4前・後			1			○							1	
	ドイツ語(会話)	2・3・4前・後			1			○							1	
	ドイツ語(総合)	2・3・4前・後			1			○							1	
	フランス語(読解)	2・3・4前・後			1			○							2	
	フランス語(会話)	2・3・4前・後			1			○							2	
	フランス語(総合)	2・3・4前・後			1			○							2	
	スペイン語(読解)	2・3・4前・後			1			○							2	
	スペイン語(会話)	2・3・4前・後			1			○							2	
	スペイン語(総合)	2・3・4前・後			1			○							1	
	中国語(読解)	2・3・4前・後			1			○							2	
中国語(会話)	2・3・4前・後			1			○							2		
中国語(総合)	2・3・4前・後			1			○							1		
韓国語(読解)	2・3・4前・後			1			○							2		
韓国語(会話)	2・3・4前・後			1			○							2		
韓国語(総合)	2・3・4前・後			1			○							3		
中国と日本の文学文化A	2・3・4前			2			○							1		
中国と日本の文学文化B	2・3・4前			2			○							1		
ドイツの歴史と文化A	2・3・4後			2			○							1		
ドイツの歴史と文化B	2・3・4後			2			○							1		
小計(29科目)	—	—	—	38			—							38		
ギリシア語・ラテン語科目	ギリシア語初級1	1・2・3・4前			1			○							1	
	ギリシア語初級2	1・2・3・4後			1			○							1	
	ラテン語初級1	1・2・3・4前			1			○							1	
	ラテン語初級2	1・2・3・4後			1			○							1	
	ギリシア語中級	2・3・4後			1			○							1	隔年
	ラテン語中級	2・3・4後			1			○							1	隔年
小計(6科目)	—	—	—	6			—							2		
AI・データサイエンス科目	DS・ICT入門I	1前	○	2				○			1	1			6	
	DS・ICT入門II	1後	○	2				○			1				9	
	DSのための数学入門	1・2・3・4前			2			○							2	
	コンピュータ・サイエンスI	1・2・3・4前			2			○				1				
	コンピュータ・サイエンスII	1・2・3・4後			2			○				1				
	情報と社会	2・3・4前			2			○							1	
	情報と職業	2・3・4後			2			○							1	
	ネットワークとセキュリティ	2・3・4前			2			○							1	
小計(8科目)	—	—	4	12			—			1	1			16		
DS基礎	DSのための微分積分入門I	1・2・3・4前			2			○							1	
	DSのための微分積分入門II	1・2・3・4後			2			○							1	
	DSのための線形代数入門I	1・2・3・4前			2			○							1	
	DSのための線形代数入門II	1・2・3・4後			2			○							1	
	DSのための確率	1・2・3・4後			2			○							1	
	DSのための統計	2・3・4前・後			2			○							2	
	データ分析	2・3・4後			2			○							1	
	DS基礎	2・3・4前・後			2			○							5	
小計(8科目)	—	—	—	16			—							11		
DE基礎	Rプログラミング	1・2・3・4前			2			○							1	
	Pythonプログラミング	1・2・3・4前・後			2			○							4	
	データハンドリングの基礎	2・3・4後			2			○							1	
小計(3科目)	—	—	—	6			—							6		
AI基礎	機械学習の基礎	2・3・4前			2			○							1	
	小計(1科目)	—	—	—	2			—							1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹(助手を除く教員)
早稲田大学連携科目	データ科学入門α	1・2・3・4後			1		○								1	
	データ科学入門β	1・2・3・4後			1		○								1	
	データ科学入門γ	2・3・4前			1		○								1	
	データ科学入門δ	2・3・4前			1		○								1	
	データ科学実践	2・3・4後			1		○								1	
	回帰と分類のデータ科学	3・4前			1		○								1	
	時系列構造のデータ科学	3・4前			1		○								1	
潜在構造のデータ科学	3・4前			1		○								1		
	小計(8科目)	—	—	8			—								3	
学芸員課程科目	博物館概論	2前					○								1	
	博物館資料論	2前			2		○								1	
	博物館経営論	2・3後			2		○								1	
	博物館資料保存論	2・3前・後			2		○								1	
	博物館展示論	2・3後			2		○								1	
	博物館教育論	2・3前			2		○								1	
	生涯学習論	2・3・4後			2		○								1	
	博物館情報・メディア論	2・3・4前・後			2		○								1	
	博物館実習1	3前				1			○						2	
	博物館実習2	3後				1			○						2	
	博物館実習3	4通				1			○						1	
	小計(11科目)	—	—	16	3		—								7	
全学共通カリキュラム等合計(185科目)		—	—	19	277-290	3	—			6	3					201
総合計(274科目)		—	—	45	433-446	3	—			7	5					231
学位又は称号		学士(教養)		学位又は学科の分野				社会学・社会福祉学関係								
卒業・修了要件及び履修方法										授業期間等						
<b>卒業要件</b> 4年以上在学し所定単位につき124単位以上を修得しなければならない。 修得すべき授業科目と単位数は、次のとおりとする。 (1) 知のかけはし科目 A(人文社会) 選択必修科目 4単位 及び B(自然科学) 選択必修科目 2単位を含め 計8単位 (2) 女性の生きる力科目 必修科目 1単位 (3) キリスト教学科目 必修科目 4単位 (4) 第一外国語科目 ※ 必修科目 10単位 (5) 第二外国語科目 ※ 選択必修科目 3単位(同一言語の初級1及び2) (6) AI・データサイエンス科目 必修科目 4単位 (7) 学科科目(自学科) 必修科目26単位、選択必修科目34単位合わせて60単位 学科科目(他学科) 10単位 (8) 自由選択科目 24単位 ※※ ※ただし、外国人正規課程留学生は、日本語を第一外国語として8単位、英語を第二外国語として6単位を修得する。 ※※ただし、外国正規課程留学生の修得すべき単位数は23単位とする。										1学年の学期区分		2学期				
										1学期の授業期間		15週				
										1時限の授業の標準時間		90分				
<b>履修方法</b> 履修科目の登録単位数の上限は、原則として1年間に40単位とする。 「*1」の範囲において8単位を修得しなければならない。 「*2」の範囲において6単位を修得しなければならない。 「*3」の範囲において2単位を修得しなければならない。 「*4」の範囲において18単位を修得しなければならない。 4年次に進級するには、前年度末までに、卒業に必要な単位数124単位のうち、所定の科目の単位を含む84単位を修得していなければならない。																

(注)

- 学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行うおとす場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科(学位の種類及び分野の変更等に関する基準(平成十五年文部科学省告示第三十九号)別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。)についても作成すること。
- 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 「主要授業科目」の欄は、授業科目が主要授業科目に該当する場合、欄に「○」を記入すること。なお、高等専門学校の学科を設置する場合は、「主要授業科目」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 「単位数」の欄は、各授業科目について、「必修」、「選択」、「自由」のうち、該当する履修区分に単位数を記入すること。
- 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 「授業形態」の欄は、各授業科目について、該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし、専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち、臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を、連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。
- 「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員等」は、大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は、「専任教員等」と読み替えること。
- 「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員以外の教員(助手を除く)」は、大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は、「専任教員以外の教員(助手を除く)」と読み替えること。
- 課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設置し、若しくは変更する場合は、次により記入すること。
  - 各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には、当該専門職大学の全課程に係る科目数、「単位数」及び「基幹教員等の配置」に加え、前期課程に係る科目数、「単位数」及び「基幹教員等の配置」を併記すること。
  - 「学位又は称号」の欄には、当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え、当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。
  - 「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には、当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え、前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。
- 高等専門学校の学科を設置する場合は、高等専門学校設置基準第17条第4項の規定により計算することのできる授業科目については、備考欄に「☆」を記入すること。

授 業 科 目 の 概 要				
(現代教養学部社会コミュニケーション学科)				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
学科科目 入門	社会コミュニケーション概論		<p>大学に入学して間もない学生を対象として、社会コミュニケーション研究を開始するにあたっての今後4年間の学びの展望を得る。社会コミュニケーション研究の端緒となる研究テーマや研究方法などについて、基本的視点を概観する。とりわけ、現代社会および現代社会が抱える諸問題の学問的理解、メディアや情報、コミュニケーションおよびICTの学問的理解、ダイバーシティやインクルージョンの学問的理解にかかわるさまざまなトピックに触れていく。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(12. 流王貴義/3回)</p> <p>社会学の基本的な発想を学ぶ 社会学の基本的な思考法を学ぶ 社会学の基本的な方法を学ぶ (9. 白銀純子/3回)</p> <p>○ 情報リテラシーに関する基礎的な知識を学ぶ ICT技術に関する基礎的な知識を学ぶ ICT技術の活用に関する基本的な知識を学ぶ (5. 唐澤真弓/3回)</p> <p>共生社会に関する基本的な知識を学ぶ 現代社会におけるダイバーシティの現状について学ぶ 現代社会におけるインクルージョンの現状について学ぶ (11. Brewster, David/3回)</p> <p>社会学の扱うテーマの広がり学ぶ 社会問題に関する基礎的な知識を学ぶ 社会問題を分析する基礎的な方法を学ぶ (2. 有馬明恵/3回)</p> <p>メディア社会に関する基礎的な知識を学ぶ 現代社会におけるメディアの現状について学ぶ メディア社会を分析する基礎的な方法を学ぶ</p>	オムニバス方式
基盤講義	社会学のあゆみI		社会学という学問の成立と発展を当時の具体的な社会状況とのかかわりで論じることによって、社会学という学問の基本的な考え方を把握する。19世紀から20世紀初頭までの社会学の歴史を、産業、労働、人口、宗教、都市といった諸観点から複合的に理解する。特定の時代において社会学が必要とされた理由、社会学の学問的洗練に向けた努力、社会学独自の対象と方法の模索、聖なるものと社会統合、都市において生じる問題の把握とその解決への志向などといった代表的トピックを概観する。	
	社会学のあゆみII		社会学という学問がどういった切実な問題に答えようとしてきたのかを見ていくことを通じ、社会学の基本的な考え方を把握する。20世紀における社会学の歴史を、大衆と民主主義、管理社会と異議申し立て、大きな政府/小さな政府、高度消費社会、第二波フェミニズム、ポスト冷戦時代といった諸観点から複合的に理解する。社会学の一般理論構築への諸努力からマルチ・パラダイム状況を経て現在に至る社会学の代表的トピックを概観する。	
	メディアコミュニケーション概論		メディア・コミュニケーションという研究領域は学際的な研究分野であり、他の学問分野よりも歴史が浅い。この授業では、メディア・コミュニケーション研究がどのように発展してきたかを体系的に学ぶ。また、メディア・コミュニケーションの効果・影響に関する古典的研究から新しい研究までを学ぶことで、メディアとオーディエンス・社会との関係について考える。そうした知識を踏まえ、メディアの使命・役割について多角的な視点から検討するための基礎知識を身につける。	
	情報デザイン概論		前提知識を必要とせず、情報デザインの基本を学ぶ科目である。情報デザインはICTが不可欠な現代社会をより良くデザインすることであり、イノベーションを生む発想法としてデザイン思考が注目されている。そのような背景を念頭に置いて、情報デザインとデザイン思考の基本をグループワークやワークショップなどの実践的内容を交えて学んでいく。この授業を、人間を幸せにするICTの使い方を考える出発点とすることを目的とする。	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	共生社会概論		グローバル化および情報化が進む現代社会において、私たちは多様な人々に出会い、彼ら/彼女らと関わりを持ちながら生きていく。本授業では、個人が多様な他者との出会いを通してどのように成長し、変化していくかを学ぶとともに、彼ら/彼女らとのかかわりの中でよりよく生きるために必要な知識・技能を養う。具体的には、社会における多様性(ダイバーシティ)および共生(インクルージョン)の2本を柱として、心・社会・文化を横断した諸概念を理論的・実践的に学ぶ。	
	社会調査法入門A		具体的な研究事例に即して、問題関心と社会調査法の関係および社会調査の実施方法、社会調査から得られるデータの読み解き方など、社会調査の意義と概要について基本的な理解を得る。社会調査の歴史、計量的社会調査と非計量的社会調査、フィールドワークの可能性と限界、調査者と被調査者の関係、個人の歴史と社会の歴史との関係、価値関心に導かれた社会調査、政策形成に貢献する社会調査、調査を実際に行うにあたっての倫理上の問題などのキーテーマを扱う。	
	社会調査法入門B		社会調査の方法のうち、調査票を用い、サンプリングを施した計量的社会調査の方法と実施上の諸問題について解説する。調査の構想、設計、実施、分析までの一連のプロセスを学んでいくことを通して、受講者が卒論などで自ら計量的社会調査を行うための基礎とする。調査の構想と調査票の作成、サンプリングと調査実施の手順、調査実施の諸方法と諸問題、コーディングとデータクリーニング、集計結果の解析の基礎などのキーテーマを扱うほか、代表的研究事例について解説する。	
発展講義 (学科共通)	社会データサイエンス入門	○	現代社会においてはデータを適切に読み取り、データから社会の特徴を適切に把握する能力が必須となっている。さらに、社会コミュニケーション学科では自学科目の学習や卒業研究においては、統計的記述の含まれる論文を読む力、自分で統計資料を整理しデータを分析する力が求められている。こういった諸々の要請を踏まえ、本授業では統計学の基礎を習得するとともに、統計分析ソフト「SPSS」を使って自分で社会データを扱う力を養う。	
	質的研究法		本授業では、社会調査の方法のなかでも特に、インタビューや参与観察、フィールドワークなど質的調査法の基本を解説し、受講者が卒論などで質的方法による社会調査を自ら行うための基礎とする。問題関心や研究対象に応じてどういった調査法を選択するか、質的調査を行うにあたってどういった準備を行うか、質的調査をどう実施するか、調査結果をどう分析するかといったテーマを扱うほか、調査倫理や代表的研究事例についても解説する。	
	社会コミュニケーション先端トピックA		本講義では、メディア環境がめまぐるしく変化し、多種多様な観点が交錯する現代社会において、以前からよく取り上げられてきたオーソドックスなテーマには収まりきらない、社会コミュニケーションに関する先端的かつ冒険的な研究テーマを扱っていく。このことにより、さまざまな学問領域における最新の知見を横断的に取り上げることで、従来の社会コミュニケーション研究の枠組みに収まりきらない新しく大胆な視点を提供することを目指す。	
	社会コミュニケーション先端トピックB		本講義では、メディア環境がめまぐるしく変化し、多種多様な観点が交錯する現代社会において、以前からよく取り上げられてきたオーソドックスなテーマには収まりきらない、社会コミュニケーションに関する先端的かつ冒険的な研究テーマを扱っていく。このことにより、さまざまな学問領域における最新の知見を横断的に取り上げることで、従来の社会コミュニケーション研究の枠組みに収まりきらない新しく大胆な視点を提供することを目指す。	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
(社会学)	現代社会論		本講義では、現代社会を捉えるための社会学的アプローチを扱う。現代社会論なので「いま」の社会について考えようとするのではあるが、そうするために、社会学における「近代」についての理論・学説の紹介から出発し、大衆社会、消費社会、管理社会といった20世紀的な「現代社会論」を概観した後に、「いま」の社会を特徴づけるいくつかのトピックを取り上げる。こうすることで、現代社会におけるさまざまな具体的問題に切り込んでいく力をつけることを目指す。	隔年
	日本社会論		本講義は、「日本社会とは何か」についての授業ではなく、「日本社会はどのようなものとして解釈されているか」についての授業である。本講義では特に、現代社会論として「日本社会」を論じていく。言い換えれば、日本の近代や脱近代を考えていくということである。日本の近代については多種多様な研究があるが、本講義では特に「ものの考え方・感じ方」に焦点を当てていく。こうすることで、「いま」の「日本社会」におけるさまざまな具体的問題に切り込んでいく力をつけることを目指す。	隔年
	家族社会学		家族をめぐる主要テーマを取り上げ、家族社会学の対象と方法を概説するとともに、代表的な知見を紹介する。家族の多様性を視野に入れながら家族の歴史および現在を考える。家族の文化的多様性、法などの社会制度や社会政策との関連、地域社会・職場社会・学校教育など他の社会領域との関連、個々の家族成員のライフコースやネットワークとの観点からみた家族、疑似家族としての共同性など、社会の中の家族を多様な文脈において理解する視点を提供する。	
	ケアの社会学		本講義では、家族の形成、夫婦間関係、世代間関係、家族の機能、家族に関する諸制度、家族をめぐる社会問題、新たな家族形態などの家族社会学の各論的テーマを「ケア」という視点から総括し、家族や親密性にかかわる新たな視点の獲得を目指す。各論的な視点から家族の歴史や現状を理解することを通して、家族と呼ばれてきたもの、あるいは「親密な関係」の、よりよいあり方を考えるとともに、現代の家族や関連領域をめぐる生じる諸問題と求められる対応についても考察していく。	
	地域社会学		本講義ではまず、地域社会学がどのような学問であるのかを解説する。中盤からは、具体的なテーマを取り上げ、地域社会における現代的な課題についての実践活動を社会学の立場から考察する。それらの問題が現代の国家政策・地域政策の中でどのように扱われ、地域・コミュニティがどのような状況におかれているのか、さらに問題への取り組みがどのようになされているのかを理解してもらう。具体的な地域問題から現代社会を読み解く力を養うのが本講義の目的である。	
	都市社会学		本授業では「都市に暮らすとはどういうことか」という問題を追求していく。授業の前半では、都市社会学という学問領域の標準的かつ基礎的な議論の学びに集中する。中盤から先は、主として都市生活や都市文化を焦点とした、個別の社会学系の研究をいくつか取り上げ、詳細に検討することを通じ、考察を深めていく。本講義では特に、若者、ライフスタイル、文化にかかわる具体的な諸問題を、都市という視点から掘り下げ、検討していく。	
	デモクラシーの社会学		デモクラシーという対象に関して、選挙における投票行動や具体的な政治家の諸行為に限定されない多面的な要素を踏まえた社会学的な考察を行う。デモクラシーの現状を考えるべく、政治学という専門分野とは異なる社会学独自の視点について概説したうえで、官僚制と行政、社会運動と政治、国家と日常生活、監獄の誕生、性と権力、新しい政治参加などのキーテーマを検討し、現代社会におけるデモクラシーの基盤について社会学的に検討する。	隔年

科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	シティズンシップの社会学		現代社会の社会問題から事例をいくつか採り上げ、そこで生じている幸福／不幸の現状をシティズンシップの社会学の見地から考察する。とりわけ、現代社会のさまざまな分断に着目しつつ、多様性を包摂しうる社会のあり方について各論的に考察する。そうした事例的な考察を踏まえながら、現代社会はどのような問題を抱えているか、それをとらえる視点はどのようなものであるべきか、といったことについて具体的に考察をくわえていく。	隔年
	労働社会学		本講義では、現代の労働市場や労働条件の格差、賃金や労働時間の決まり方など、労働・仕事をめぐる主要テーマを取り上げ、労働社会学の対象と方法を概説するとともに、代表的な知見を紹介する。労働・仕事をめぐる文化、法などの社会制度や社会政策との関連、家族や学校教育、地域社会など他の社会領域との関連、働く人々にとっての働くことやキャリアの意味など、労働・仕事・職場世界の歴史と現在を考察する多様な社会学的視点の提示を目指す。	
	グローバル化と労働		近年、産業構造が一国の規模を大きく超えて世界規模で拡大を続けている。より詳しく見ると、脱工業化が進み知識社会を形成する国・地域が見られる一方で、工業化を進行させつつ労働力を送り出す国・地域もあり、これらを二つの極として、国境を越えた産業構造が形成され、社会的分業が編成されている。本講義では以上のような事実を、特定の地域に焦点を合わせながら具体的な事例に即して明らかにし、社会学の観点から考察を加えていく。	
	ジェンダーとセクシュアリティの社会学		ジェンダーとセクシュアリティをめぐるいくつかのテーマを取り上げ、ジェンダーとセクシュアリティの社会学の対象と方法を概説するとともに、代表的な知見を紹介する。取り上げるトピックとしては、フェミニズムの歴史と諸理論の紹介から始まって、性自認をめぐる問題、同性婚の問題、男性学・メンズリブ、男同士・女同士の絆、Xジェンダー、アセクシュアル・アロマンティック、LGBTをめぐる問題、キア・スタディーズなどが挙げられる。	
	文化社会学		本講義では、私たちの文化にはさまざまな側面があり、私たちが気づかない側面も存在することを検討し、それを通して社会の多様な側面を検討していく。人と人とを結びつけ、一定の社会秩序をもたらす規範としての文化という社会学的な文化の定義を基本にしなが、文化と社会の関係、文化の階層構造、特定の文化のもとでの生きられた経験、マイノリティ文化などのキーテーマの検討を通じて、現代社会の文化について批判的に考察する目を養う。	
	ライフコースの社会学		個々人や世代のライフコースを社会学的視点から考える。ライフコースをめぐる社会学の成立と展開について概観したあと、ライフステージや性別などに応じたライフコース上の具体的な諸問題とその変容、社会的背景やマクロの影響について概説する。少子化と高齢化、晩婚化と非婚化、エイジング、ライフコースと職業・経済生活、ライフコースと家族、多様なライフコース、多様なライフコースを支える社会的仕組み、世代間関係などのキーテーマを扱う。	
	福祉社会学		本講義では、福祉政策の歴史的展開や理論的・思想的根拠を学ぶとともに、現在の福祉政策に向けられる批判や直面する課題について検討していく。より詳しくは、福祉政策ないし福祉国家の成立および展開について具体的な事例に触れながら概観したあと、絶対的貧困と相対的貧困、救貧思想、社会的包摂／社会的排除、家族・労働、児童福祉、母子・父子福祉、高齢者福祉、障害者（児）福祉、社会福祉のヒューマン・パワー、社会福祉と人権などの各論的キーテーマを扱う。	
	臨床社会学		社会の中の営みである社会学は、単に社会について理論的・思想的に考察するだけにとどまらず、社会の生成や再生の現場に立ち会い、これらに積極的にかかわっていくことも課題の一部としてきた。本講義では、こうした考え方に基づく臨床社会学の視点を概説したうえで、生と死をめぐる人間の脆弱さ、病や障害、さまざまな生きづらさや困難を抱える人々の経験、および医療や福祉、共助などによる支援と支え合いの現場をめぐる諸問題を扱っていく。	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	国際社会学		近年、先進国と開発途上国の格差、先進諸国内での格差、地球規模での環境問題、文化摩擦や民族紛争の問題、冷戦構造の崩壊と資本主義の世界化といった諸事象が生じている。こうした状況をとらえる視点として、国民国家を超えた社会のありようを考察する国際社会学について総論的に説明する。国民社会、国民国家、ナショナリズム、世界システム、サブ・ナショナルな単位と関わるエスニシティ、地域主義などの論点をめぐり、自明性としての国民国家の相対化、新しい分析ユニットの登場について論じる。	
	社会問題の社会学		現代の社会問題には多種多様なものがあるが、本講義では特に、犯罪ないし逸脱行為にかかわるトピックを扱っていく。より詳しくは、犯罪現象や犯罪行為にかかわる学問である犯罪学の知見を紹介するところから出発して、実際の犯罪現象や犯罪行為に関して、いくつかのテーマを取り上げながら、世界的な動向の検討や国家間比較を通じ、グローバルな犯罪現象や犯罪行為について社会的に考えていく。具体的な社会問題を通じて現代社会を読み解く力を養うのが本講義の目的である。	
	情報社会論		インターネットにはじまってAIに至るまで、さまざまな新しい情報技術が登場し社会を基盤から大きく変えてきている。一方で、こうした新しい情報技術について正しく理解し、それが人間同士のコミュニケーションや社会に与えている影響について考えることは重要になってきている。本講義では、新しい情報技術を正しく理解する力を身につけると共に、こうした新しい情報技術がどのような社会基盤に影響を与えるかについて想像する力を持つことで、これから大きく変わる新しい情報技術を前提とした社会をデザインしなおす可能性について展望する。	
(メディア情報)	メディア史		われわれの祖先が文明を發明して以来、人間のコミュニケーションの形態はいくつかの点で重要な変化を遂げてきた。本講義では、メディアの発展の歴史を学ぶ中で、これまでのメディアの特性について、伝達される情報量や範囲などの基礎的な知識を習得する。そうした知識と共に、メディアが果たしてきた役割について、特に人間の情報伝達や情報行動のあり方の変遷、人と人とのコミュニケーションのあり方の変遷、メディアと社会との関係を考察する。	
	メディア社会論		メディアの来歴について、さまざまなメディアが人々の結びつきや社会のあり方にどのような影響を与えてきたかを、その理論やパラダイム、議論を事例を交えて学ぶ。特に、目まぐるしく変化する今日のメディアについては、その伝え方や表象をも批判的に検討してできるよう、基本的・専門的な知識を習得する。さらに、複眼的な視点からメディアの社会的影響を検討していく。メディアの過去、現在、未来を俯瞰的に学び、今後のメディアのあり方、メディアとの付き合い方を検討する。	
	グローバルメディア		今日、情報は国境を越えてマスメディアやSNSなどのさまざまなコミュニケーションツールで伝えられる。本授業では、国際コミュニケーションをめぐる歴史的動向、メディア・文化のグローバル化およびトランスナショナル化、およびこれらに関する主要な議論や理論パラダイム、諸言説を、さまざまな事例を交えて学んでいく。さらに、グローバル化と社会の関係について、メディア・コミュニケーションと文化の視点から考察し、批判的な検討を行う。	
	政治とメディア		政治コミュニケーションが扱う事象は、投票行動、世論形成、社会運動とオンラインジャーナリズム、プロパガンダ、フェイクニュース、国際政治、安全保障など多岐にわたることを具体的な事例を通して学ぶ。さらに、そうした政治コミュニケーションは、有権者と政治家を介するメディアによって成り立っていることを理解し、三者の関係を理解するために必要な概念や理論を学ぶ。その上で、民主主義の担い手として自律的に考え主体的に行動するとはどのようなことかを検討する。	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	ジャーナリズムと現代社会		新聞、テレビ、インターネットを通じて流される政治、経済、災害、紛争・戦争などに関する今日のニュースを題材に、現代社会においてメディア・ジャーナリズムが果たしている役割を理解し、ジャーナリストの使命と一般市民の「知る権利」の関係について学ぶ。また、ジャーナリズムの発展過程とその過程におけるジャーナリズムの問題(戦争報道、原発報道、虚偽報道など)についても学ぶことで、ニュースの価値、ニュースを的確に理解し情報を読み解く力、情報を発信する際の倫理意識を学ぶ。	
	リスクコミュニケーション		本授業では、現代社会においてリスクコミュニケーションという問題意識を持つ必要性、リスクコミュニケーションが対象とする領域を、今日的な事例をまじえて学ぶことを通じ、誰もがリスクの当事者になる可能性があることを理解するとともに、リスクコミュニケーションの理論やアプローチ方法を習得する。また、リスクコミュニケーションにさまざまなメディアが果たす役割について理解し、リスクマネジメントに活かせる能力と態度を身につけていく。	
	広告論		本授業では、多様化・複雑化するメディア環境と企業環境に注目し、マーケティング活動に占める広告の位置づけと広告計画について、体系的に学んでいく。また、広告の経済的・社会的・文化的意味について学び、広告と社会との関わりについて理解を深める。さらに、デジタル時代における広告の役割とその問題点を検討し、今後の広告のあり方を考察する。さらに、広告が人々の消費行動や知識などの認知的側面に与える影響のメカニズムについても学ぶ。	
	メディア文化論		テレビやケータイなどのメディアは、今日我々の生活の一部となっており、我々の生活様式や行動様式はそうしたメディアの影響により変容し、アイデンティティはメディアへの接触を通して強化され、集合的記憶もメディアへの接触により構築されることから、メディアは文化的側面への影響を持つと考えられる。この授業では、実証研究や事例などの学習と理論的検討を通して、そうしたメディアの社会的・文化的影響を理解する。同時に、メディアの社会的・文化的影響を多面的かつ批判的に検討する視点を習得する。	
	ジェンダーとメディア		ジェンダーの問題は、ドラマや映画などの映像メディア、ニュース番組や新聞記事などの報道、小説や漫画などの娯楽メディアなどに顕著に表れていることが多い。この授業では、そうしたメディアに表象されるジェンダーを分析・検討する理論について学ぶ。さらにメディアに描かれるジェンダーを批判的に検討する視点を養う。そうしたことを通じて、自分自身や社会の中にあるジェンダー意識を再考し、メディアにおけるジェンダーがオーディエンスに与える影響について検討する姿勢を身につける。	
	メディアとことば		メディアにおける言語情報・言語使用の持つ意味と特徴を考え、様々なメディアを駆使し、ことばで伝える能力を高める。活字メディア、放送メディアなどのマスメディアのニュースや広告など、送り手によって発信される言語情報の内容や形態を分析し、その社会的影響について理解を深める。また、ソーシャルメディアにおいては、ユーザーが自由に発信・共有することで、言語情報が拡散されている。多様化するメディア社会における情報発信の担い手として、様々なメディアのことばに触れて分析し、発信力、表現力を高める文章作成についても学んでいく。	
	ソーシャルメディアとコミュニティデザイン		ソーシャルメディアを活用したコミュニティのデザインについて扱う。まず、ソーシャルメディアでのコミュニケーション行動、コミュニティについての基礎を学ぶ。そして、学校や企業、地域でのソーシャルメディアの活用例をもとにして、より深くソーシャルメディアの特徴やコミュニティデザインについて学ぶ。さらに、授業の中でソーシャルメディアを活用するコミュニティデザインの実践を体験し、その評価方法を検討し評価するまでを行い、コミュニティにソーシャルメディアを活用する方法やその可能性と限界を考える。	

科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	ソーシャルメディアと現代社会		インターネットを用いたコミュニケーションであるソーシャルメディアを取り上げる。まず、現在の主流のソーシャルメディアを中心にその特徴を体系的に学ぶ。またソーシャルメディアでのコミュニケーションの行動面と心理面を様々な角度から理解する。そして、ソーシャルメディアの持つポジティブな面とネガティブな面について学ぶことで、現代社会におけるソーシャルメディアにかかわる様々な課題について理解し、その解決方法について考察する。	
	現代社会のサイバーセキュリティ		今やさまざまな局面でインターネットが利用されている。必要な情報を容易に取得できる利点もあるが、ウイルス被害や個人情報流出といった問題点も存在する。本講義では、社会においてインターネットがどのように利用されているかを見ながら、インターネットに求められていること、インターネットの可能性について考えるとともに、インターネットが抱える問題点についても学ぶ。特に、社会基盤としてのインターネットに求められている、セキュリティに関する問題や新しいコミュニケーションのデザイン、インターネットを基盤とした安心安全な新しい社会の仕組みの創出について学ぶ。	
	コミュニケーションとキャリア		現在、私たちにとってICTの活用は必要不可欠なものになりつつある。このことによって働き方も変化している。本授業では、社会の情報化の進展や情報システムについて理解し、その上で、情報化によってビジネス環境がどのように変化しているのか、企業においてICTがどのように活用されているのかを学ぶ。また、ICTによって労働観がどのように変化しているのか、また将来どのように変化していくのかについても議論する。ユニバーサルデザインの視点などに立って、女性の視点での働き方を考える。	
	デザイン思考Ⅰ		情報デザインとデザイン思考、両者に共通する思想である人間中心設計の基本を学ぶ科目である。デザインとは何か、情報デザインとは何か、情報デザインのプロセス、ユーザ調査のための手法（ユーザ調査・インタビュー・フィールドワークなど）、コンセプト化のための手法（コンセプトデザイン・ペルソナ手法・シナリオ手法・発想法など）、視覚化のための手法（構造の視覚化・情報の構造化・アイデアスケッチなど）を、グループワークや実際にパソコンを使い体験しながら学ぶ。	
	デザイン思考Ⅱ		人間中心設計の考えに立って情報デザインを自分の活動で実践できるようになるために、「デザイン思考Ⅰ」と合わせて、情報デザイン、デザイン思考、人間中心設計の手法を学ぶ科目である。この科目では特に、プロトタイプを制作して、ユーザや専門家が評価する手法、感性を科学する方法などを、グループワークや実際にパソコンを使い体験しながら学ぶ。主観的要素である人の感覚（感性）を評価することで、それ以外の手法とは異なるアプローチで人間を理解することができる。	
	デザイン心理A		情報技術が進歩し、映像や音声データがデジタル化され、さまざまな通信メディアを通じて人間のコミュニケーションを豊かにしている。AV機器やコンテンツのデザインは、人間の視覚・聴覚の特性に適合するように発展してきた。この講義では、人間の非常に優れた感覚の特性と、その特性がAV機器やコンテンツにどう反映されているのかを学ぶとともに、高齢・障害のある人の特性とユニバーサルデザインについても触れる。この科目については視覚を中心に扱う。	
	デザイン心理B		情報技術が進歩し、映像や音声データがデジタル化され、さまざまな通信メディアを通じて人間のコミュニケーションを豊かにしている。AV機器やコンテンツのデザインは、人間の視覚・聴覚の特性に適合するように発展してきた。この講義では、人間の非常に優れた感覚の特性と、その特性がAV機器やコンテンツにどう反映されているのかを学ぶとともに、高齢・障害のある人の特性とユニバーサルデザインについても触れる。この科目については聴覚を中心に扱う。	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	ユーザ体験とユーザインターフェース		ユーザインターフェースは、Webやアプリを使用する際に欠かせない、ユーザとコンピュータ側の接点である。ユーザは、ユーザインターフェースに対して入力を行い、ユーザインターフェースからの出力を受け取る。そのため、ユーザが獲得するユーザ体験への影響は大きい。そこで、ユーザインターフェースを構築するために必要な情報アーキテクチャ、開発のフレームワーク、モバイルデザインなどに触れ、ユーザ体験を考慮した実践的なプロトタイプを作成・評価する手法を身に付けることを目標とする。	
	ユーザニーズ分析		アプリ作成において、そのアプリをどのようなものとして作成するかを決定すること、つまり作成したいものに対するニーズを分析することは、ものづくりの最初のステップである。このときに行うことは、作成するものに対する関係者(ステークホルダ)をリストアップし、ステークホルダからのニーズを引き出す。そのニーズについて実現可能な形にまとめ、最終的に文書として記述することである。本講義では、まず、適切にユーザニーズの分析がなされることの重要性について学ぶ。そして、ステークホルダの中でも特にユーザからのニーズを中心に、各段階で利用できる手法を学習する。	
	ICTリテラシーA		コンピュータの発達と普及が目覚ましい現代社会において、情報システムは日常生活に欠かせなくなっている。そういった身近な情報システムをよりよく利用していくために、その基本を学ぶことが重要である。この科目は、情報システムを運用していく際に基盤となっているネットワークとセキュリティ、リレーショナルデータベースなどを取り上げる。情報システムを扱う職業人として必要なレベルの基礎知識を、実際にコンピュータを操作して、実践的に学んでいく。初心者にもわかりやすいように学習する。	
	ICTリテラシーB		コンピュータの発達と普及が目覚ましい現代社会において、情報デザインやインターフェースは、わかりやすい、そして使いやすい情報システムの構築に必要不可欠である。また、マルチメディア技術により、情報社会における様々な情報を多角的に表現することができる。この科目では、情報をわかりやすく伝えるための原則や、情報システムを操作するためのユーザインターフェースの基礎、および様々な情報の表現方法・技術について学習する。	
	マルチメディアと表現I		情報を表現するための手段として静止画を取り上げ、静止画像のフォーマットやコンピュータでの色の表現の概念、スキャナ・デジタルスチルカメラの利用方法、写真のデジタル編集(Photo Retouch)、描画ソフトを利用した画像の作成と加工、GIFアニメーションなど、静止画表現に必要な知識や技術を実習を通して学ぶ。静止画作品を発表する媒体としてはWebを利用するため、HTMLやWeb公開の基礎から、ユニバーサルなWebデザイン、Webコンテンツ公開時の著作権や肖像権についても触れる。	
	マルチメディアと表現II		情報を表現するための手段として動画を取り上げ、時間とともに変化するビデオ・コンテンツの表現手法について、着想・絵コンテの作成、撮影時のノウハウ、ノンリニア編集、圧縮・保存・公開する一連のDTVの過程を学ぶ。これらの過程は、デジタルビデオカメラを利用してビデオ素材を撮影し、作品を作成するという実習を通して実践的に学んでいく。作品は、YouTubeなどWebによる公開の他にCDやDVD、DVテープなどの多様なメディアでの表現についても学び、ビデオ・コンテンツ作成に関する知識と技術を習得する。	
	Webでの情報表現		受講者に前提知識を必要とせず、誰もが使いやすいWebサイトを実際に製作して発表する科目である。変化の激しいICT社会の中心となっているWebの重要性を理解し、高齢者や初心者や障害者などの誰もが使いやすいWebサイトを、Web標準に準拠して制作するスキルを、設計、制作および評価のプロセスに分けて、実例やWebサイト制作実習で学ぶ。数ページで構成されるサイトの制作を最終課題とする。モバイル社会の対応も紹介する。	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	Media Literacy		1年次で習得したアカデミック・スキルに立脚し、リサーチ・スキルをさらに発展させ、自らのリサーチについて批判的に思考する意識を養成する。学習者は、他の学生との共同作業によって、世界の知に貢献するための解決方法を見出すうえで必要なツールを身に着ける。 この科目は、メディアに関連する語彙や概念についての学生の理解を深め、メディア・リテラシーを育成する。メッセージの作成者、メッセージが対象とする読者、メッセージの目標を特定することで、学生がメディア・メッセージを分解して分析する準備を整える。このプロセスを通して、学生が独立した批判的思考を行うメディア消費者となることを目指す。加えて、学生は新聞記事のようなレポートを作成する。これにより、学生は新しいスキルを実践する機会を得る。	
	メディアと経済		従来の枠組みが崩れ、あらゆるものが多角的にメディアになりうる時代に、メディアを通して、実際にどのように経済が回っているか、それが生活者ひとり一人の幸せにどうつながっているのか、そしてこれからの生活者にとってメディアはどのような存在になっていくのかを検討する。この科目では、現場での経験事例を通して、その実体を理解する。	
（共生社会と人間）	共生社会と人間行動（ダイバーシティ）		多文化に出会う現代社会の中では、人々の多様性が高まる過程で自分と他者さらには自文化と異文化の違いに意識が向けられ、それが結果として個人間・文化間の摩擦を生んでいくことになる。この授業では、こうした多文化社会における多様な側面（地域、ジェンダー、人種、経済性、社会階級）における対立の様子およびそれら対立が生まれるプロセスについて心理学的に理解する。そのうえで、ダイバーシティとの出会いによる個人の成長と変化を学びながら、多文化共生を導くアイデアについて、発表、議論していく。	
	共生社会と人間行動（インクルージョン）		共生が求められる現代社会において、人は多様な他者・文化に出会う。多様な人々との出会いが、他者および異文化の理解を深めるとともに、自身および自文化を再認識することにつながる。さらに、多文化の比較を通して、人々の心理や行動パターンは変化していく。この授業では、多様な個人および文化の心理行動傾向に触れながら、人々が他者個人や異文化をどのように受容していくかを学ぶ。そして、多様な人々が幸せに生きる共生（インクルージョン）の過程を検討する。	
	共生社会と心理（マクロ：集団・社会）		現代社会はグローバル化・情報化と相まって複雑に変容しており、そのような社会における集合現象および人々の心理過程を適切に捉えることがより重要になっている。この授業では、人間の集団心理・群衆心理や集合行動（うわさ・流言・流行現象など）、メディアと社会的表象、イノベーションの普及過程研究など、主にマクロな視点から共生社会で求められる心理や人間行動を理解した上で、共生社会実現するための思考力、判断力を養う。	
	共生社会と心理（ミクロ：個人・対人）		共生社会においては、多様な人々を受容し、彼ら/彼女らと良好な対人関係を構築することが求められる。日常生活の中で、私たちは個人の心理過程および対人のコミュニケーション過程を経て様々な感情を抱きながら他者を認知し関係を構築していく。本授業では、ミクロ（個人的・対人的）な視点から感情、社会的認知、意思決定、帰属過程、そして他者と共生するためのコミュニケーションに関する実証的知見を学ぶ。そして、多様な背景を持つ人々との共存方法を探索していく。	

科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	共生社会と心理（文化）		人は生まれてから死ぬまでの発達過程で多様な他者と共生するための「社会的知性」を身に付けていく。一方で、特定の文化で身に付けた社会的な知性は他の文化でも当てはまるとは限らず、無意識のうちに認知的なバイアスとして偏見や差別をはじめとした誤った判断や行動をもたらすことになる。この授業では、人が発達過程で身に付ける認知情報処理のモデルを理解するとともに、知覚や記憶を含む認知バイアスが生じる社会・心理的メカニズムを学際的に学ぶ。また、具体的な認知バイアスの問題解決に至るプロセスをクラス全体で検討する。	
	エイジングの心理学		高齢社会の中で、エイジングに対する概念は、変容してきた。年齢によって、衰退していくネガティブな意味から、サクセスフルエイジングやポジティブなバイアス、知恵など、ポジティブな意味が付与されて来るようになった。こうした人間観の変遷は、高齢社会により人間が経験し、またその知見が積み重ねられたことにより可能となったものである。本講義では、エイジング関する歴史の変遷を外観し、具体例を交えながら共生社会における心理学研究を分析し、人間の命題である生きる意味を議論していく。	
	子どもと社会		人間は環境や社会からの情報を得て、主体的にこころを作っていく。この授業では、親子関係を皮切りに、幼稚園や学校、会社などさまざまな人間関係、社会との関係のなかで、どのように心や育てていくのか発達心理学、赤ちゃん学や進化心理学、文化心理学、脳科学の知見から、理解していく。特に、子どもをめぐるエピソードから、なぜ子どもがそのような行動をするのか、どんな風に、見て、聞いて、話していくのかといった問いを立て、学際的知見から子どもの世界を理解し、同時にその成長をサポートする視点を養う。さらにまた自分の子どもだったときを振り返り、自分自身への理解も深めていくことを期待する。	
	ダイバーシティとコミュニケーション		ダイバーシティとは人間の多様性を表すことばである。国籍、人種や男女といった違いだけでなく、機能的損傷などによるコミュニケーションの相違も含まれる。コミュニケーションの違いを通して、障害を持つことを理解し、違いをこえたコミュニケーションの方略を体得する。この講義では、社会の中でのダイバーシティを理解し、その上でコミュニケーション障害をもつ人をインクルージョンしていく方法について、様々な方策を検討、議論していく。	
	対人コミュニケーション（ジェンダー・セクシュアリティ）		対人コミュニケーションの仕方は、話者の属性によって異なる傾向があり、属性差の主要な例として、セクシュアリティやジェンダーによる違いがあげられる。心理行動傾向や言語行動の選択をはじめとしたコミュニケーション行動の男女差が、家族関係や共同体、および公共社会における対人関係の在り方と相互に関わっていることを概観する。また、個人のセクシュアリティに応じた行動の違いと社会的に期待されるジェンダー像との関わりについても考察する。	
	対人コミュニケーション（家族・共同体）		人間は、人と人との関係を通して自己を形成していく。家族や共同体はその始まりの場でもある。また、家族や共同体にはまた様々な人間関係の特徴がある。この授業では、発達の視点と社会・心理学的視点を中心として、家族や共同体のダイナミクスの多様な様相を習得する。そのうえで、家族や共同体でのコミュニケーションを通じた人間の成長の昔田を、生涯発達の視点から考察する。また、現代における多様な家族や共同体のあり方を議論していく。	
	対人コミュニケーション（公共社会）		人間は、社会的動物である。人が生活する場は、家庭や共同体から組織、公共社会へと拡大し、またより多くの他者を相手と関係を構築することとなる。この授業では、ビジネス場面をはじめとした公共社会におけるコミュニケーションの特徴を学び、葛藤場面でのコミュニケーション、相手を説得するためのコミュニケーションについて理解する。その上で、多様なアクターのWell-beingが高まるWin-Winなコミュニケーションのあり方を模索し、議論していく。	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
基盤演習	1年次演習（社会コミュニケーション）	○	本授業では、社会コミュニケーション学科を構成するさまざまな専門領域の基礎的な概念枠組みについて、入門レベルの学習を進めていく。あわせて、自主的な学習姿勢を前提とした報告や討論による演習形式での授業を通じて、大学において学習を進め研究を行っていくために必要な技法＝スタディスキル（具体的には、文献報告ないし研究発表の行い方、質疑・応答や討論の行い方、文献や資料などの集め方・調べ方、図書館の利用法、レポートの書き方など）を習得する。	
	2年次演習（社会コミュニケーション）	○	本授業は演習形式の授業であり、社会コミュニケーション学科を構成するさまざまな専門領域に関して、主として英語による学術的な文献を読解し、要約したうえで論旨を発表していく。あわせて、学びを深めるとともに演習メンバーとして役割を果たすために必要となるアカデミックスキル（具体的には、効果的なプレゼンテーションのやり方、学術的な文章の書き方、討論の進め方（聴き方、話し方、とりまとめ方）などを伸ばすことを目指す。	
	社会データサイエンスA	○	統計的データをまとめたり分析したりするために必要な、推測統計学の基礎的な知識を実習を通して学ぶ。具体的には、記述統計の基礎を理解し、度数分布表、相関散布図、正規分布、クロス表などの記述統計を習得する。また、確率論の基礎、母集団と標本・標本抽出法のサンプリングの概念、検定・推定の理論とその応用（平均と比率の差の検定、相関係数の検定、クロス表の独立性の検定など）、回帰分析の基礎を統計ソフトの扱い方も含め習得する。さらに、これらを社会調査や行動科学の問題意識の中に位置づけて理解していく。	
	社会データサイエンスB		社会調査・行動科学のデータの分析で用いる基礎的な多変量解析法について、その基本的な考え方と主要な計量モデルを実習を通して学んでいく。具体的には、重回帰分析を基本としながら、他の計量モデル（たとえば二元配置分散分析、主成分分析、因子分析、クラスタ分析など）といった分析法を、公開データの利用法や統計ソフトの扱い方も含めて習得する。また、問題意識に適した統計分析の活用法とはどういったものかについても理解を深めていく。	
	社会コミュニケーション実習（実験法）		人間のコミュニケーションを実証的に研究する上で、仮説を検証するためには最も強力とも言える研究方法である、実験法について実習を通して学ぶ。人間を実験対象（被験者）にする実験のパイオニアである、心理学の領域において蓄積されてきた実験の手法を、研究目的の設定、検証可能な操作的仮説への落としこみ、実験計画の立案、実施、データの整理、統計分析、考察と結論、報告書の作成まで全手順を複数回体験しながら、分析方法について、単純な差の検定から分散分析、多重比較、重回帰分析、因子分析を実験方法と対にして学ぶ。	
	社会コミュニケーション実習（内容分析）		量的内容分析の方法とそれによって得られたデータの解析方法について、実習を交えて解説する。内容分析とは何か、内容分析にできることとできないこと、内容分析の一般的手続き（サンプルの選び方、コーディングシートの作り方・作成上の注意事項、データの集計方法、データの分析方法、結果のまとめ方）などを、コーディング・シートによる内容分析とテキスト計量分析の実習を通して学ぶ。また、基本的な量的データの分析方法として、記述集計、クロス集計、 $\chi^2$ 検定、相関係数、t検定などを復習する。	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	共生社会デザイン (ダイバーシティ)		グローバルな世界の中で、自分とは異なる文化的背景をもつ他者に出会う。そこで気づくのは、人間の行動原理は必ずしも普遍的ではなく、文化によって多様であることである。日常的文化的経験と自己は相互に生成しあっているのである。本授業では、多文化共生社会の中で他者を理解するために、東洋と西洋を含めた多様な文化軸(ジェンダー、経済性、宗教、人種)をとりあげ、文化心理学的データの見方を学ぶ。その上で、欧米で文化心理学や日本を学ぶチームとのディスカッションを通して、考察を深めていく。異文化の視点からの日本に対する批判や問題を受け、文化に対する潜在的なバイアスに気づくこと、表面的な文化差の指摘にとどまらず、その差が生み出されるプロセスや、文化に特有の行動パターンがどのような機能を果たしているか、ディスカッションを通して、グローバル社会での人間像および問題解決の道筋を議論していく。その際、英語でのディスカッションを通して講義内容を理解する力を養成する。	
	共生社会デザイン (インクルージョン)		共生社会において、子どもや高齢者など、Vulnerableな人への配慮や視点を持った社会デザインが必要である。その際、相手に対する単なる補助ではなく、それぞれの立場にある人々の主体的な意思のもとに、自立した活動を支援することが望まれる。そして、多様な人々を観察・理解し、話し合い、互いに協働することが大切である。さらに、人と人、人とモノとのあいだのコミュニケーションをデザインする力も求められる。本授業では、人々が共生する社会・心理・コミュニケーションに関する基礎知識を身につけた上で、学外機関との連携や現場での学びをすることで、一人ひとりが幸せに生きられる共生社会デザインを発信する力を養う。	
	ユニバーサルデザインA		情報デザインの基本である「人間中心設計」の考え方を学ぶ。「人間中心設計」とは、人が使用するものを、ユーザの立場に立って設計していく考え方である。できるだけ多くの人が利用できるように、設計段階で検討するユニバーサルデザインを例にとって、自分たちでデザインを考えて評価する体験を交えてこの分野の考え方を学ぶ。ユーザビリティ(使いやすさ)、アクセシビリティ(障害者や高齢者が使えること)、ユーザ体験(嬉しい利用体験)やこれらの評価手法も経験し、この科目との関連を議論する。	
	ユニバーサルデザインB		ユニバーサルデザインは、より多くの人が効果的に楽に利用できる環境や仕組みを求めるポリシーである。そのポリシーを実効性のあるデザインであるかどうかは、利用者にとって重要な要素が見えるか、聞こえるか、触ってわかるかによって決まってくる。本講義では、実効性のあるデザインに高めていくデザイン心理学的アプローチの方法論を講義する。環境や生活において効果的なデザインについて、事例をあげ、自分たちで考えながら体験的な学習を行う。	
	WebプログラミングI		初心者でも開発しやすいプラットフォームなどを利用して、JavaScriptを用いた簡単なプログラミングを制作できるようになる演習科目である。自分でコードを書く練習をしながら、分岐と反復を含んだ基本的なアルゴリズムのパターンと基本的なデータ構造を理解する。また、テストの仕方やデバッグの方法も学ぶ。JavaScriptを用いたWebプログラミングで必要となるWeb技術であるHTMLとCSSの基本も理解する。	
	WebプログラミングII		「WebプログラミングI」と合わせて、自分が必要とするWebプログラミングを制作できるようになる演習科目である。オブジェクト指向言語としてのJavaScriptの文法を理解することを目指す。JavaScriptを使って、論理的な思考やアルゴリズム考案が身につくような例題を演習する。実践的な課題や練習を多く経験して技術を習得する。自作のプログラムが動く楽しさを経験し、Web技術の資格試験合格にも挑戦してもらいたい。	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	日本語データ分析I		本授業では日本語（一般に言語）表現をコンピュータで扱う技能や、データマイニングについて、その基礎となる考え方を学んでいく。実際の日本語のテキストデータを用いながら、コンピュータに向かいつつ、基礎的な技術を取得することをめざす。さらには授業時間外の実習によって、より深い理解をはかる。プログラミング言語（PerlやPython等）によるプログラミングや、既存のツール（KHCoder等）による実習をとまなう。	
	日本語データ分析II		本授業では日本語（一般に言語）表現をコンピュータで扱う技能とともに、その基礎となる考え方を学んでいく。実際の日本語のテキストデータを用いながら、コンピュータに向かいつつ、その応用的な技術・考え方を取得することをめざす。さらには授業時間外の実習によって、より深い理解をはかる。言語表現・情報をコンピュータによって処理する方法を総合的に把握するとともに、先人が見出してきたものを習得するだけでなく、コンピュータの活用の可能性を自ら探る態度を身につけることを目標とする。	
発展演習	3年次演習（社会コミュニケーション）I	○	「3年次演習（社会コミュニケーション）I」では、学生が自らの関心に基づいて演習担当者を選び、その指導のもとに専門領域の知見を増やしなが、次第に自分の研究テーマを深く掘り下げ、自己の問題意識を明らかにし、研究の方法論を確立していく。演習の形式は「2年次演習（社会コミュニケーション）」までと変わらないが、内容はより専門的で、読む文献も専門書や学術雑誌の論文などが中心となる。本演習では文献研究によって問題意識を深めつつ、自分の関心に合ったテーマを探していくことが中心となる。	
	3年次演習（社会コミュニケーション）II	○	「3年次演習（社会コミュニケーション）II」では、学生が自らの関心に基づいて演習担当者を選び、その指導のもとに専門領域の知見を増やしなが、次第に自分の研究テーマを深く掘り下げ、自己の問題意識を明らかにし、研究の方法論を確立していく。演習の形式は「2年次演習（社会コミュニケーション）」までと変わらないが、内容はより専門的で、読む文献も学術雑誌の論文などが中心となる。本演習では「3年次演習（社会コミュニケーション）I」よりも具体的に研究を遂行するために必要な方法や概念について議論を深め、4年次に行う卒業研究の準備を行う。	
	4年次演習（社会コミュニケーション）I	○	「4年次演習（社会コミュニケーション）I」では、個々の学生が自らの関心に基づいて行う卒業研究と連動させなが、演習が行われる。卒業研究とは、より専門的な知識をもとに、各自のテーマに沿った先行研究のレビューや研究の問題意識の明確化、仮説の設定、実証データの収集、分析、結果の考察、論文執筆にいたる一連の過程である。それらを担当教員の支援を受けなが、遂行していく。多くの授業時間外の学習や努力が学生に要求される。	
	4年次演習（社会コミュニケーション）II	○	「4年次演習（社会コミュニケーション）II」では、個々の学生の卒業研究と連動させなが、演習が行われる。「4年次演習（社会コミュニケーション）II」の期間に、実証データの収集の後、分析、結果の考察、論文執筆、繰り返し加筆修正を行うという一連の過程が行われる。これらを担当教員の支援を受けなが、遂行していく。多くの授業時間外の学習や努力が学生に要求される。学術論文の論理的構成と形式を理解し、研究成果をまとめ、説得的にプレゼンテーションする表現技法も身につける。	
	社会コミュニケーション実習I		本授業では、社会コミュニケーション分野において社会調査を行う意義、個々の領域での調査方法の概要などについて、実習形式で学んでいく。まず、社会コミュニケーション分野における調査研究の基礎的な理念や方法、調査報告書などの先行研究を体系的に読み解くことから出発し、社会調査をめぐる基本的な考え方や社会調査をどうやって行っていくかについての方法論を確認した上で、実際に調査を行っていくための計画を立案し、調査票やインタビューガイド等を設計・作成する。	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	社会コミュニケーション実習II		社会コミュニケーション分野における調査研究の理念、方法などの理解に基づき「社会調査実習I」で立案された調査計画、設計された調査票やインタビューガイドをもとに調査を実施し、データ整理・分析を行う。採用する調査方法（量的調査法、質的調査法など）の特徴を理解し、調査対象の選定、調査の実施、コード化と集計、結果の解釈、報告書の作成などの実際について実習形式で学ぶ。自ら質問紙調査、聞き取り調査などを経験することで、社会調査の方法を卒業論文研究に用いるための準備とする。	
卒業論文	卒業論文	○	学生が自らの知的関心に沿って研究テーマおよび問題提起を設定し、資料・文献をもとに仮説を立て、これを調査・実験・実習等により検証して、明確な根拠とともに提示するという一連の営みを通じて、学士課程での集大成として論文を作成する。それまでに得た知見・能力を統合してこの営みにつなげるために発展演習において考察・議論に必要な力を養い、担当教員の個別指導と授業内外の討論を活かして各自論文執筆を進める。卒業論文提出後、複数の教員による口述試験を実施し、論文の審査を行う。	
知のかけはし科目	人文社会横断型A	○	本授業は、研究領域の異なる2名の教員が1クラスを担当し、学問領域の違いを越えた対話や議論を通して新しい知見や創造的な視座を確立し、社会を再構築する力を修得することを目的とする。すべての授業回において教員同士または教員と学生、または学生間の議論を取り入れて、多様性と相互理解の重要性の意味を考えさせる。 現代は、人文科学や社会科学といった既存の学問枠組みでは解決できない課題に直面している。本講義では「心」を共通テーマとして、それぞれの専門知を踏まえて両者の境界を対話と議論により越える可能性を模索し、創造的な解決策を追求する。	共同
	人文社会横断型B	○	本授業は、研究領域の異なる2名の教員が1クラスを担当し、学問領域の違いを越えた対話や議論を通して新しい知見や創造的な視座を確立し、社会を再構築する力を修得することを目的とする。すべての授業回において教員同士または教員と学生、または学生間の議論を取り入れて、多様性と相互理解の重要性の意味を考えさせる。 現代は、人文科学や社会科学といった既存の学問枠組みでは解決できない課題に直面している。本講義では「ことば」を共通テーマとして、それぞれの専門知を踏まえて両者の境界を対話と議論により越える可能性を模索し、創造的な解決策を追求する。	共同
	人文社会横断型C	○	本授業は、研究領域の異なる2名の教員が1クラスを担当し、学問領域の違いを越えた対話や議論を通して新しい知見や創造的な視座を確立し、社会を再構築する力を修得することを目的とする。すべての授業回において教員同士または教員と学生、または学生間の議論を取り入れて、多様性と相互理解の重要性の意味を考えさせる。 現代は、人文科学や社会科学といった既存の学問枠組みでは解決できない課題に直面している。本講義では「平和」を共通テーマとして、それぞれの専門知を踏まえて両者の境界を対話と議論により越える可能性を模索し、創造的な解決策を追求する。	共同
	人文社会横断型D	○	本授業は、研究領域の異なる2名の教員が1クラスを担当し、学問領域の違いを越えた対話や議論を通して新しい知見や創造的な視座を確立し、社会を再構築する力を修得することを目的とする。すべての授業回において教員同士または教員と学生、または学生間の議論を取り入れて、多様性と相互理解の重要性の意味を考えさせる。 現代は、人文科学や社会科学といった既存の学問枠組みでは解決できない課題に直面している。本講義では「人と自然」を共通テーマとして、それぞれの専門知を踏まえて両者の境界を対話と議論により越える可能性を模索し、創造的な解決策を追求する。	共同

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	人文社会横断型E	○	本授業は、研究領域の異なる2名の教員が1クラスを担当し、学問領域の違いを越えた対話や議論を通して新しい知見や創造的な視座を確立し、社会を再構築する力を修得することを目的とする。すべての授業回において教員同士または教員と学生、または学生間の議論を取り入れて、多様性と相互理解の重要性の意味を考えさせる。 現代は、人文科学や社会科学といった既存の学問枠組みでは解決できない課題に直面している。本講義では「コミュニケーション」を共通テーマとして、それぞれの専門知を踏まえて両者の境界を対話と議論により越える可能性を模索し、創造的な解決策を追求する。	共同
	人文社会横断型F	○	本授業は、研究領域の異なる2名の教員が1クラスを担当し、学問領域の違いを越えた対話や議論を通して新しい知見や創造的な視座を確立し、社会を再構築する力を修得することを目的とする。すべての授業回において教員同士または教員と学生、または学生間の議論を取り入れて、多様性と相互理解の重要性の意味を考えさせる。 現代は、人文科学や社会科学といった既存の学問枠組みでは解決できない課題に直面している。本講義では「イメージと表象」を共通テーマとして、それぞれの専門知を踏まえて両者の境界を対話と議論により越える可能性を模索し、創造的な解決策を追求する。	共同
	人文社会横断型G	○	本授業は、研究領域の異なる2名の教員が1クラスを担当し、学問領域の違いを越えた対話や議論を通して新しい知見や創造的な視座を確立し、社会を再構築する力を修得することを目的とする。すべての授業回において教員同士または教員と学生、または学生間の議論を取り入れて、多様性と相互理解の重要性の意味を考えさせる。 現代は、人文科学や社会科学といった既存の学問枠組みでは解決できない課題に直面している。本講義では「思考の囚われからの解放を目指して」を共通テーマとして、それぞれの専門知を踏まえて両者の境界を対話と議論により越える可能性を模索し、創造的な解決策を追求する。	共同
	人文社会横断型H	○	本授業は、研究領域の異なる2名の教員が1クラスを担当し、学問領域の違いを越えた対話や議論を通して新しい知見や創造的な視座を確立し、社会を再構築する力を修得することを目的とする。すべての授業回において教員同士または教員と学生、または学生間の議論を取り入れて、多様性と相互理解の重要性の意味を考えさせる。 現代は、人文科学や社会科学といった既存の学問枠組みでは解決できない課題に直面している。本講義では「イギリス」を共通テーマとして、それぞれの専門知を踏まえて両者の境界を対話と議論により越える可能性を模索し、創造的な解決策を追求する。	共同
	人文社会横断型I	○	本授業は、研究領域の異なる2名の教員が1クラスを担当し、学問領域の違いを越えた対話や議論を通して新しい知見や創造的な視座を確立し、社会を再構築する力を修得することを目的とする。すべての授業回において教員同士または教員と学生、または学生間の議論を取り入れて、多様性と相互理解の重要性の意味を考えさせる。 現代は、人文科学や社会科学といった既存の学問枠組みでは解決できない課題に直面している。本講義では「人権/human rights」を共通テーマとして、それぞれの専門知を踏まえて両者の境界を対話と議論により越える可能性を模索し、創造的な解決策を追求する。	共同
	人文社会横断型J	○	本授業は、研究領域の異なる2名の教員が1クラスを担当し、学問領域の違いを越えた対話や議論を通して新しい知見や創造的な視座を確立し、社会を再構築する力を修得することを目的とする。すべての授業回において教員同士または教員と学生、または学生間の議論を取り入れて、多様性と相互理解の重要性の意味を考えさせる。 現代は、人文科学や社会科学といった既存の学問枠組みでは解決できない課題に直面している。本講義では「ヨーロッパと人文学」を共通テーマとして、それぞれの専門知を踏まえて両者の境界を対話と議論により越える可能性を模索し、創造的な解決策を追求する。	共同

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	人文社会横断型K	○	本授業は、研究領域の異なる2名の教員が1クラスを担当し、学問領域の違いを越えた対話や議論を通して新しい知見や創造的な視座を確立し、社会を再構築する力を修得することを目的とする。すべての授業回において教員同士または教員と学生、または学生間の議論を取り入れて、多様性と相互理解の重要性の意味を考えさせる。 現代は、人文科学や社会科学といった既存の学問枠組みでは解決できない課題に直面している。本講義では「ヨーロッパの文化遺産」を共通テーマとして、それぞれの専門知を踏まえて両者の境界を対話と議論により越える可能性を模索し、創造的な解決策を追求する。	共同
	人文社会横断型L	○	本授業は、研究領域の異なる2名の教員が1クラスを担当し、学問領域の違いを越えた対話や議論を通して新しい知見や創造的な視座を確立し、社会を再構築する力を修得することを目的とする。すべての授業回において教員同士または教員と学生、または学生間の議論を取り入れて、多様性と相互理解の重要性の意味を考えさせる。 現代は、人文科学や社会科学といった既存の学問枠組みでは解決できない課題に直面している。本講義では「日本のキリスト教と国際社会」を共通テーマとして、それぞれの専門知を踏まえて両者の境界を対話と議論により越える可能性を模索し、創造的な解決策を追求する。	共同
	人文社会横断型M	○	本授業は、研究領域の異なる2名の教員が1クラスを担当し、学問領域の違いを越えた対話や議論を通して新しい知見や創造的な視座を確立し、社会を再構築する力を修得することを目的とする。すべての授業回において教員同士または教員と学生、または学生間の議論を取り入れて、多様性と相互理解の重要性の意味を考えさせる。 現代は、人文科学や社会科学といった既存の学問枠組みでは解決できない課題に直面している。本講義では「自然」を共通テーマとして、それぞれの専門知を踏まえて両者の境界を対話と議論により越える可能性を模索し、創造的な解決策を追求する。	共同
	人文社会横断型N	○	本授業は、研究領域の異なる2名の教員が1クラスを担当し、学問領域の違いを越えた対話や議論を通して新しい知見や創造的な視座を確立し、社会を再構築する力を修得することを目的とする。すべての授業回において教員同士または教員と学生、または学生間の議論を取り入れて、多様性と相互理解の重要性の意味を考えさせる。 現代は、人文科学や社会科学といった既存の学問枠組みでは解決できない課題に直面している。本講義では「自己について」を共通テーマとして、それぞれの専門知を踏まえて両者の境界を対話と議論により越える可能性を模索し、創造的な解決策を追求する。	共同
	人文社会横断型O	○	本授業は、研究領域の異なる2名の教員が1クラスを担当し、学問領域の違いを越えた対話や議論を通して新しい知見や創造的な視座を確立し、社会を再構築する力を修得することを目的とする。すべての授業回において教員同士または教員と学生、または学生間の議論を取り入れて、多様性と相互理解の重要性の意味を考えさせる。 現代は、人文科学や社会科学といった既存の学問枠組みでは解決できない課題に直面している。本講義では「アジア」を共通テーマとして、それぞれの専門知を踏まえて両者の境界を対話と議論により越える可能性を模索し、創造的な解決策を追求する。	共同
	人文社会横断型P	○	本授業は、研究領域の異なる2名の教員が1クラスを担当し、学問領域の違いを越えた対話や議論を通して新しい知見や創造的な視座を確立し、社会を再構築する力を修得することを目的とする。すべての授業回において教員同士または教員と学生、または学生間の議論を取り入れて、多様性と相互理解の重要性の意味を考えさせる。 現代は、人文科学や社会科学といった既存の学問枠組みでは解決できない課題に直面している。本講義では「古典文学のこころとことば」を共通テーマとして、それぞれの専門知を踏まえて両者の境界を対話と議論により越える可能性を模索し、創造的な解決策を追求する。	共同

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	人文社会横断型Q	○	本授業は、研究領域の異なる2名の教員が1クラスを担当し、学問領域の違いを越えた対話や議論を通して新しい知見や創造的な視座を確立し、社会を再構築する力を修得することを目的とする。すべての授業回において教員同士または教員と学生、または学生間の議論を取り入れて、多様性と相互理解の重要性の意味を考えさせる。 現代は、人文科学や社会科学といった既存の学問枠組みでは解決できない課題に直面している。本講義では「日本人の認識」を共通テーマとして、それぞれの専門知を踏まえて両者の境界を対話と議論により越える可能性を模索し、創造的な解決策を追求する。	共同
	人文社会横断型R	○	本授業は、研究領域の異なる2名の教員が1クラスを担当し、学問領域の違いを越えた対話や議論を通して新しい知見や創造的な視座を確立し、社会を再構築する力を修得することを目的とする。すべての授業回において教員同士または教員と学生、または学生間の議論を取り入れて、多様性と相互理解の重要性の意味を考えさせる。 現代は、人文科学や社会科学といった既存の学問枠組みでは解決できない課題に直面している。本講義では「現代思想」を共通テーマとして、それぞれの専門知を踏まえて両者の境界を対話と議論により越える可能性を模索し、創造的な解決策を追求する。	共同
	人文社会横断型S	○	本授業は、研究領域の異なる2名の教員が1クラスを担当し、学問領域の違いを越えた対話や議論を通して新しい知見や創造的な視座を確立し、社会を再構築する力を修得することを目的とする。すべての授業回において教員同士または教員と学生、または学生間の議論を取り入れて、多様性と相互理解の重要性の意味を考えさせる。 現代は、人文科学や社会科学といった既存の学問枠組みでは解決できない課題に直面している。本講義では「家族」を共通テーマとして、それぞれの専門知を踏まえて両者の境界を対話と議論により越える可能性を模索し、創造的な解決策を追求する。	共同
	人文社会横断型T	○	本授業は、研究領域の異なる2名の教員が1クラスを担当し、学問領域の違いを越えた対話や議論を通して新しい知見や創造的な視座を確立し、社会を再構築する力を修得することを目的とする。すべての授業回において教員同士または教員と学生、または学生間の議論を取り入れて、多様性と相互理解の重要性の意味を考えさせる。 現代は、人文科学や社会科学といった既存の学問枠組みでは解決できない課題に直面している。本講義では「開発とは何か」を共通テーマとして、それぞれの専門知を踏まえて両者の境界を対話と議論により越える可能性を模索し、創造的な解決策を追求する。	共同
	人文社会横断型U	○	本授業は、研究領域の異なる2名の教員が1クラスを担当し、学問領域の違いを越えた対話や議論を通して新しい知見や創造的な視座を確立し、社会を再構築する力を修得することを目的とする。すべての授業回において教員同士または教員と学生、または学生間の議論を取り入れて、多様性と相互理解の重要性の意味を考えさせる。 現代は、人文科学や社会科学といった既存の学問枠組みでは解決できない課題に直面している。本講義では「デザイン」を共通テーマとして、それぞれの専門知を踏まえて両者の境界を対話と議論により越える可能性を模索し、創造的な解決策を追求する。	共同
	人文社会横断型V	○	本授業は、研究領域の異なる2名の教員が1クラスを担当し、学問領域の違いを越えた対話や議論を通して新しい知見や創造的な視座を確立し、社会を再構築する力を修得することを目的とする。すべての授業回において教員同士または教員と学生、または学生間の議論を取り入れて、多様性と相互理解の重要性の意味を考えさせる。 現代は、人文科学や社会科学といった既存の学問枠組みでは解決できない課題に直面している。本講義では「ダイバーシティ」を共通テーマとして、それぞれの専門知を踏まえて両者の境界を対話と議論により越える可能性を模索し、創造的な解決策を追求する。	共同

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	人文社会横断型W	○	本授業は、研究領域の異なる2名の教員が1クラスを担当し、学問領域の違いを越えた対話や議論を通して新しい知見や創造的な視座を確立し、社会を再構築する力を修得することを目的とする。すべての授業回において教員同士または教員と学生、または学生間の議論を取り入れて、多様性と相互理解の重要性の意味を考えさせる。 現代は、人文科学や社会科学といった既存の学問枠組みでは解決できない課題に直面している。本講義では「北東アジア」を共通テーマとして、それぞれの専門知を踏まえて両者の境界を対話と議論により越える可能性を模索し、創造的な解決策を追求する。	共同
	人文社会横断型X	○	本授業は、研究領域の異なる2名の教員が1クラスを担当し、学問領域の違いを越えた対話や議論を通して新しい知見や創造的な視座を確立し、社会を再構築する力を修得することを目的とする。すべての授業回において教員同士または教員と学生、または学生間の議論を取り入れて、多様性と相互理解の重要性の意味を考えさせる。 現代は、人文科学や社会科学といった既存の学問枠組みでは解決できない課題に直面している。本講義では「ヘルスケア」を共通テーマとして、それぞれの専門知を踏まえて両者の境界を対話と議論により越える可能性を模索し、創造的な解決策を追求する。	共同
	人文社会横断型Y	○	本授業は、研究領域の異なる2名の教員が1クラスを担当し、学問領域の違いを越えた対話や議論を通して新しい知見や創造的な視座を確立し、社会を再構築する力を修得することを目的とする。すべての授業回において教員同士または教員と学生、または学生間の議論を取り入れて、多様性と相互理解の重要性の意味を考えさせる。 現代は、人文科学や社会科学といった既存の学問枠組みでは解決できない課題に直面している。本講義では「命」を共通テーマとして、それぞれの専門知を踏まえて両者の境界を対話と議論により越える可能性を模索し、創造的な解決策を追求する。	共同
	人文社会横断型Z	○	本授業は、研究領域の異なる2名の教員が1クラスを担当し、学問領域の違いを越えた対話や議論を通して新しい知見や創造的な視座を確立し、社会を再構築する力を修得することを目的とする。すべての授業回において教員同士または教員と学生、または学生間の議論を取り入れて、多様性と相互理解の重要性の意味を考えさせる。 現代は、人文科学や社会科学といった既存の学問枠組みでは解決できない課題に直面している。本講義では「英語文学と日本語文学との交流」を共通テーマとして、それぞれの専門知を踏まえて両者の境界を対話と議論により越える可能性を模索し、創造的な解決策を追求する。	共同
	自然科学包含型A	○	本授業は、研究領域の異なる2名の教員が1クラスを担当し、学問領域の違いを越えた対話や議論を通して新しい知見や創造的な視座を確立し、社会を再構築する力を修得することを目的とする。すべての授業回において教員同士または教員と学生、または学生間の議論を取り入れて、多様性と相互理解の重要性の意味を考えさせる。 今日では、従来の文系/理系を越える多角的視野が不可欠である。本講義では、「社会変容」を共通テーマとして、人文科学や社会科学を越えて、自然科学の専門知をも踏まえた対話と議論を取り入れて、現代的課題の創造的な解決策を模索する。	共同
	自然科学包含型B	○	本授業は、研究領域の異なる2名の教員が1クラスを担当し、学問領域の違いを越えた対話や議論を通して新しい知見や創造的な視座を確立し、社会を再構築する力を修得することを目的とする。すべての授業回において教員同士または教員と学生、または学生間の議論を取り入れて、多様性と相互理解の重要性の意味を考えさせる。 今日では、従来の文系/理系を越える多角的視野が不可欠である。本講義では、「国際関係と科学」を共通テーマとして、人文科学や社会科学を越えて、自然科学の専門知をも踏まえた対話と議論を取り入れて、現代的課題の創造的な解決策を模索する。	共同

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	自然科学包含型C	○	本授業は、研究領域の異なる2名の教員が1クラスを担当し、学問領域の違いを越えた対話や議論を通して新しい知見や創造的な視座を確立し、社会を再構築する力を修得することを目的とする。すべての授業回において教員同士または教員と学生、または学生間の議論を取り入れて、多様性と相互理解の重要性の意味を考えさせる。 今日では、従来の文系/理系を越える多角的視野が不可欠である。本講義では、「自然現象」を共通テーマとして、人文科学や社会科学を越えて、自然科学の専門知をも踏まえた対話と議論を取り入れて、現代的課題の創造的な解決策を模索する。	共同
	自然科学包含型D	○	本授業は、研究領域の異なる2名の教員が1クラスを担当し、学問領域の違いを越えた対話や議論を通して新しい知見や創造的な視座を確立し、社会を再構築する力を修得することを目的とする。すべての授業回において教員同士または教員と学生、または学生間の議論を取り入れて、多様性と相互理解の重要性の意味を考えさせる。 今日では、従来の文系/理系を越える多角的視野が不可欠である。本講義では、「図形」を共通テーマとして、人文科学や社会科学を越えて、自然科学の専門知をも踏まえた対話と議論を取り入れて、現代的課題の創造的な解決策を模索する。	共同
	自然科学包含型E	○	本授業は、研究領域の異なる2名の教員が1クラスを担当し、学問領域の違いを越えた対話や議論を通して新しい知見や創造的な視座を確立し、社会を再構築する力を修得することを目的とする。すべての授業回において教員同士または教員と学生、または学生間の議論を取り入れて、多様性と相互理解の重要性の意味を考えさせる。 今日では、従来の文系/理系を越える多角的視野が不可欠である。本講義では、「真実とは何か」を共通テーマとして、人文科学や社会科学を越えて、自然科学の専門知をも踏まえた対話と議論を取り入れて、現代的課題の創造的な解決策を模索する。	共同
	自然科学包含型F	○	本授業は、研究領域の異なる2名の教員が1クラスを担当し、学問領域の違いを越えた対話や議論を通して新しい知見や創造的な視座を確立し、社会を再構築する力を修得することを目的とする。すべての授業回において教員同士または教員と学生、または学生間の議論を取り入れて、多様性と相互理解の重要性の意味を考えさせる。 今日では、従来の文系/理系を越える多角的視野が不可欠である。本講義では、「数理学」を共通テーマとして、人文科学や社会科学を越えて、自然科学の専門知をも踏まえた対話と議論を取り入れて、現代的課題の創造的な解決策を模索する。	共同
	自然科学包含型G	○	本授業は、研究領域の異なる2名の教員が1クラスを担当し、学問領域の違いを越えた対話や議論を通して新しい知見や創造的な視座を確立し、社会を再構築する力を修得することを目的とする。すべての授業回において教員同士または教員と学生、または学生間の議論を取り入れて、多様性と相互理解の重要性の意味を考えさせる。 今日では、従来の文系/理系を越える多角的視野が不可欠である。本講義では、「環境問題」を共通テーマとして、人文科学や社会科学を越えて、自然科学の専門知をも踏まえた対話と議論を取り入れて、現代的課題の創造的な解決策を模索する。	共同
	自然科学包含型H	○	本授業は、研究領域の異なる2名の教員が1クラスを担当し、学問領域の違いを越えた対話や議論を通して新しい知見や創造的な視座を確立し、社会を再構築する力を修得することを目的とする。すべての授業回において教員同士または教員と学生、または学生間の議論を取り入れて、多様性と相互理解の重要性の意味を考えさせる。 今日では、従来の文系/理系を越える多角的視野が不可欠である。本講義では、「AI」を共通テーマとして、人文科学や社会科学を越えて、自然科学の専門知をも踏まえた対話と議論を取り入れて、現代的課題の創造的な解決策を模索する。	共同

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	自然科学包含型I	○	<p>本授業は、研究領域の異なる2名の教員が1クラスを担当し、学問領域の違いを越えた対話や議論を通して新しい知見や創造的な視座を確立し、社会を再構築する力を修得することを目的とする。すべての授業回において教員同士または教員と学生、または学生間の議論を取り入れて、多様性と相互理解の重要性の意味を考えさせる。</p> <p>今日では、従来の文系/理系を越える多角的視野が不可欠である。本講義では、「数理モデル」を共通テーマとして、人文科学や社会科学を越えて、自然科学の専門知をも踏まえた対話と議論を取り入れて、現代的課題の創造的な解決策を模索する。</p>	共同
女性の生きる力科目	挑戦するリベラルアーツ		<p>この授業では、まずリベラルアーツとは何かという基本的な問いから出発し、リベラルアーツという学びを軸に据えたときに、どのような学びの活動が見えてくるかについて、互いに学問領域の異なった教員が、自身の研究テーマに即して自由に研究の内容を紹介し、魅力を語り、これからの展望を示す。これらを統合し、専門性をよりどころとしながらも、専門分野の殻に閉じこもらない、開かれた学びの態度を養うとともに、自分の専門分野を客観的にとらえ直す力を身につける。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)  (174. 榊原哲也/1回) 誰かをケアするとはどういうことか、哲学からのアプローチを行う。  (57. 光延真哉/1回) 資料を通じ江戸の芝居小屋を考察する。  (69. Howen, Andrew/1回) 俳句について、日本語圏・英語圏両方の視点から考察を行う。  (58. 柳原伸洋/1回) 誰しものが持つ「過去」とリベラルアーツとしての歴史学との違いについて検討する。  (64. 西村もも子/1回) 戦争、環境破壊、貧困といった問題はなぜ解決されないのか、国際関係から考える。  (13. 家永真幸/1回) 「地域文化」と「国際社会」をジャイアント・パンダにまつわる歴史・外交から読み解く。  (21. 長谷川克之/1回) Gゼロとは何かを学び、日本経済の針路を検討する。  (66. 小西由樹子/1回) 経営学を学ぶ重要性を検討する。  (19. 関村オリエ/1回) コミュニティを考えるためのさまざまな視点を学ぶ。  (27. 工藤恵理子/1回) 私たちはどのように自分と世界を認識しているのか検討する。  (31. 前川あさ美/1回) 「自分らしさ」とは何か、心理学的知見から検討する。  (12. 流王貴義/1回) 自身の自由が制約されていると感じる身近な例をもとに、社会と自由について検討する。  (9. 白銀純子/1回) 情報に対する利用者のニーズを考察する。  (10. 福島慎太郎/1回) 共生社会と心理について検討する。  (59. 山内博/1回) 24次元の神秘性に関わる話を紹介する。</p>	オムニバス方式
	女性学・ジェンダーを学ぶ		近代化を推進してきた男性中心のパラダイムや価値観を、ジェンダーの視点から問い直した「女性学」。その成立の過程や基本概念について学びながら、体系的な理論構造を明らかにする。またそのなかで、女性学が提示した「ジェンダー」（社会的・文化的性差）の概念を軸として、性別を問わず個人としての尊厳が重んじられる男女共同参画社会のあり方について、男性学にも留意しながら考察していく。	
	女性のキャリア形成		人生においてどのようなキャリアを築くかは、ライフコースの選択と密接にかかわり、またライフコースの選択はジェンダーと直結している。個人のなかでキャリアとジェンダーは不可分であり、いずれかだけを考えて生きていくことはできない。この授業では、改正男女雇用機会均等法施行後の女性労働の現状、高学歴女性の職業意識やキャリアパターン、企業における女性のキャリア形成、仕事と家庭の両立支援などの問題をとりあげ、女性が生涯にわたって発展的なキャリアをたどるためのシナリオを考える。	
	女性と社会		日本社会の内側、また国際社会にあって、女性が直面する問題にどのようなものが存在するであろうか。また、現代にあってその問題にどのように取り組み、解決しようとしているのか。この講義では、このような問いかけをし、女性やジェンダーの視点から、現代社会を多面的に捉え、課題を洗い出したうえで、問題解決に向けての方策を考察する。	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	女性のウェルビーイング		現代社会の急激な変化によって、人々は生涯にわたって様々なストレスに晒される。この講義では、女性がストレスにどう対処し、それをどう成長の糧にするかについて、精神保健学の観点から学習する。人の誕生から死に至るまでのライフサイクルにおいて、節目節目で遭遇する精神医学的・心理的・社会的課題についてジェンダーの視点から概観し、それら乗り越える知恵や経験やスキルを精神保健学から学び、この学習がその人らしいライフサイクルを送るための契機になるような講義を行う。	
	女性の起業		女性が社会で活躍し貢献するための一つのキ・ルートが起業である。本授業では、日本での起業をめぐる問題点や可能性、女性起業家の具体例や資金計画等に関する基礎的な知識を講述したうえで、ディスカッションやプレゼンテーションなどのグループワーク、個別のカウンセリングを通じて、商品企画を起業につなげるための実践的スキルを習得する訓練をおこなう。これにより、女性が実際に起業するまでの道筋を可視化して、起業へと一歩踏み出せるようにする。	
	女性のための金融リテラシー入門		基本的な金融商品・サービスの内容からサステナビリティの実現を通じた社会課題解決への取り組み等、金融業界に関する幅広い分野について学ぶ。そして、社会とつながることで成長を実感し、より豊かな暮らしを営むことに必要な金融知識を習得することに加え、社会の持続的な発展のため、金融を通じてよりよい社会や新たな価値創造に寄与しようとする態度を育む。	
	日本国憲法		この授業では、国の統治機構、基本的人権を中心に、代表的な判例を紹介しながら論点を整理し考察していく。日本国憲法制定の歴史、基本的人権の歴史、プライバシーの権利、法の下での平等、自由権的基本権、社会権的基本権、統治機構としての立法権、行政権、司法権などを取上げて日本国憲法の基本原理を学び、憲法改正問題についても触れる。	
	ケンブリッジ教養講座		この科目は、学生の学習機会の多様化を促進し、国際人としての広い社会的視野と深い見識を身につけることを目的とする。本学の夏期休暇中の約4週間、海外の大学で実施する教養講座に参加し、所定の成績を修めた場合の単位認定の科目として設置する。本学で身につけた外国語の運用能力を用いて、講義・討論・発表等を行なうことで、個々のテーマに関する知識を拡充し、その理解を深めると同時に社会・経済・文化をグローバルな視点で捉える能力の育成をめざす。	
	女性のウェルネス・身体運動	○	女性の健康のための基礎的な知識や方法論を学ぶ。各種測定を通じて自己の身体を把握し、スポーツ・エクササイズの実習を通して正しい運動法を身につけ、身体能力を養う。望ましい生活習慣を理解する。身体運動実習におけるグループ活動を通してコミュニケーション能力を高める。心身のコンディションを自己管理する重要性和基礎的手法を学ぶ。生涯を視野に入れ、自分に適した健康法、運動法を主体的に実践していく力を養う。	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	からだの科学		からだや健康に関連することがらについて、日々の生活で身近な話題や日常生活で役立つ内容も多く取り上げながら、からだの機能やメカニズムを科学的に捉え、運動に対する適応の仕組みを学び、積極的に健康を育ていく姿勢を養う。女性のからだに着目し、妊娠・分娩・婦人科疾患についても学び、健康で自分らしく生きていくためにはどうすれば良いかを考える。	
	発育と発達		子どもは自発的に遊び、子どもなりの方法でその動きを身につけながら育っていくことが理想であるが、現代社会においては必ずしもそのとおりにはいかない数々の事情がある。本講義では、子どものからだの発育・発達の原理・原則を学び、さらに、体力・運動能力に影響する要因や正しい測定・評価方法などの知識を身につける。「育った」結果としての自分を考察するとともに、生涯にわたる人間の発育・発達を考える。	
	栄養と健康		健康に生きるための「食」についての知識、理論、実践法を学ぶ。栄養と運動は健康に直結している。摂取する食のエネルギーと生きているからだを使うエネルギーのバランス及びその内容の重要性について学ぶ。また、現代社会ならではの食の問題について考え、自らの食生活をチェックすることなどを通じて、健康に過ごすための食生活について理解を深める。	
	女性の健康科学		女性の基礎的教養として、生涯を通して必要な女性の身体とその機能、それに付随する事柄を科学的に理解することを目標とする。身体の解剖・機能・妊娠・分娩・婦人科疾患などについて基礎的な事柄を理解する。また性的問題や不妊治療、出生前診断などの、生理的知識のみならず、倫理的問題、またジェンダーの視点も加味して、性や生命の問題について考えを深める。	
	性と生命（セクソロジー）		本講義では生理学、性科学、ジェンダー、性の多様性、人間の性愛とは、性と社会など多面的に考察する。時代の大きな変化の中で「性」のあり方もまた大きく変わりつつある。かつて女性の性は自らの意思や希望によって選ぶことなど許されなかった。結婚する、しない、産む、産まない等、自己決定や選択の余地はなかったのである。今、それらは選択の対象となった。それは結果について自ら責任を負うことである。自分自身納得できる生き方を貫くためにはどうしたらよいか。性への偏見や思い込みを捨て一から学び直す。	
	女性の心身コンディショニング		現代社会は様々なストレスにより心と身体の不調を訴える人々が増加している。この講義では、女性が健やかに一生を送ることができるよう心身のコンディションを整えるための理論と方法論を学ぶ。はじめに身体の構造を学び、不快感の原因を探る。さらにその解消方法を様々な健康法から学び、実習することにより心身の自己管理能力を養い、生涯を健康的で豊かに過ごす能力を養う。	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
実践	スポーツA		スポーツは、私たちの生活を豊かにすることができる「地球規模の共通文化」である。ここでは様々なスポーツの中から、屋外で出来るスポーツ（テニス、サッカー、ソフトボール等）を取り上げ、基礎技術を習得し、身体能力の増進をはかり、スポーツを通じてコミュニケーション能力を養う。さらに生涯の健康増進も視野に入れ、スポーツを主体的に日常生活に取り入れていくための素養・能力を養う。	
	スポーツB		スポーツは、私たちの生活を豊かにすることができる「地球規模の共通文化」である。ここでは様々なスポーツの中から、屋内で出来るスポーツ（バドミントン、卓球、バレーボール・バスケットボール等）を取り上げ、基礎技術を習得し、身体能力の増進をはかり、スポーツを通じてコミュニケーション能力を養う。さらに生涯の健康増進も視野に入れ、スポーツを主体的に日常生活に取り入れていくための素養・能力を養う。	
	スポーツC		様々なスポーツを通して自分に合ったもの及び方法を探り、生き生きとした生活の一部として組み入れることができるよう、実践的に学ぶ。ルールを守り、安全に実施できることも重要な課題である。そのスポーツ特有の面白さを理解し、できないと思っていたことができるようになっていくプロセスを体験することにより、その魅力を第三者にも伝えられるようになることを目指す。	
	スポーツD		スポーツに関わる形は多様化しており、環境やルールや用具などを選択することにより、幼児から高齢者、体力の低い人や障害のある人でも生涯にわたり楽しむことが可能である。健康の維持・増進だけでなく、趣味や生きがい、社交の場ともなる生涯スポーツの意義や価値を知り、様々な活動の形に興味・関心を持って主体的に関わる態度を養う。基本技術を習得し、「できる」ことを増やすことで生涯スポーツの可能性を広げる。	
	フィジカルエクササイズA		本授業では伝統的中国養生法、身体技法をとりあげ、現代に生かす身体観、健康観の基礎を築き、身体技法を身につけることを目標とする。心を動かし、そして、身体を動かす。太極拳、練功十八法等を通して、動くことを外から見える身体の運動だけでなく、心の内面の充実、ゆっくり、心と対話しながら、身体の内面を磨くために伝統的身体技法を身につける。	
	フィジカルエクササイズB		代表的な健康法として知られているインド発祥のヨガは、特有のポーズと呼吸法で身体全体の免疫力の向上、ストレス緩和効果など、健康の維持や増進に役立つ効果がある。また、ピラティスはリハビリテーション・プログラムとして開発された経緯を持っているため様々な年代における健康増進や筋力強化に効果がある。ここでは、ヨガやピラティスについての正しい基本的な知識や方法・効果について学び、実習を通してその技法を習得し、生涯の健康を支える自己管理能力を養う。	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	フィジカルエクササイズC		痩せたい、筋肉をつけたい、スポーツがうまくなりたいなど、目的によって様々なトレーニング方法があり、メディアには多くの情報が氾濫している。しかし、運動（トレーニング）と身体の変化には原理・原則がある。その基礎理論を学ぶことにより、それらの情報の持つ正しい内容を理解できるようになる。目的に応じた適切なトレーニング・プログラムを自ら作成する力をつけ、継続的に実践することにより、自分の身体が変わっていくことを知る。	
	身体表現A		人類の誕生と共に発生したダンスは、歴史・民族・風土・社会と深く関わりながら舞踊文化・身体文化を作り上げてきた。ここでは芸術性を重視したダンス（バレエ等）を取り上げ、その歴史的変遷を学び、各ダンスの特徴を学習していく。同時に基本技術を習得し、身体を通して表現する楽しさや洗練された身のこなし、豊かな感性の獲得を目指す。	隔年
	身体表現B		身体を通して表現する楽しさや洗練された身のこなし、豊かな感性の獲得を目指す。ここでは現代的なリズムに合わせたダンス（ジャズダンス・ヒップホップ等）の歴史的変遷を学び、基本技術を習得し、身体を通して表現する。音楽にあわせて踊るジャズダンスやヒップホップといったダンスを通して身体に意識を向け、ダンステクニックの基礎を習得しながら、表現力と感性を高め、身体表現の可能性を広げる。	
	身体表現C		日本人の身体文化に注目する。日本人の立ち居振る舞い、その特徴、日本の舞踊文化の歴史的変遷を学ぶ。踊りを習得し衣装を付け、身体を通して表現する。授業を通して、日本の伝統文化を発信できる知識も養う。伝統に培われた自然な身体技法を身に付けながら日本文化の真髄をからだで味わい、表現する。	隔年
キリスト 教学 科目	基礎 キリスト教学入門Ⅰ	○	東京女子大学とキリスト教の関係を学ぶことによって、本学の「建学の精神」を理解する。また、キリスト教の全体像を学び、そのキリスト教の土台である聖書を学ぶ。これらの学びを通して、現代世界に生きる自らの人生について考える。	
	キリスト教学入門Ⅱ	○	イエス・キリストの生涯と福音及び初代教会の設立と宣教活動について、またキリスト教の歴史的及び社会的展開を学ぶ。これらの学びを通して、現代世界に生きる自らの人生について考える。	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
発展	キリスト教概論		本講義の前提となるのは、西洋哲学思想がキリスト教神学との折衝を不可避な関係として受け止めてきた事実である。それ故に、特に西洋の哲学を理解する上で、キリスト教神学を把握することは、重要な学的営みだといえよう。本講義では、前半から中盤にかけて、キリスト教における信仰内容（教義）を、それぞれの項目ごとに詳細に言及しつつ、キリスト教神学思想の全体像を省察する。さらに本講義の後半では、現代における哲学と神学の関係性を、著名なキリスト教神学者の神学思想を基に考察する。	
	聖書の世界		歴史と文化（旧約聖書においては古代オリエント、新約聖書においてはユダイズムとヘレニズム）との関わりや、テキストの文学的特徴にも関心を向けながら、より深い理解が得られるよう聖書を読解する。それらを学問的に学ぶとともに、キリスト教思想についても理解を深め、それぞれの人生観・世界観について問い、生きる意味を考える。	
	キリスト教と倫理		グローバル化し多元化する現代社会において、人はいかに生きるべきかという問い(生の哲学)に答えを見出すことは容易ではないし、そもそもその問いが成り立つのかも議論されてきた(メタ倫理学)。そういった近代以降の倫理学の展開(義務論、功利論等)、その前提と枠組みを意識しつつ、キリスト教は今日の倫理的問いに対してどのように語り得るのかを考える。	
	キリスト教の歴史		キリスト教はローマ・カトリック教会、東方正教会、プロテスタント諸教会の3つの大きな流れに分かれて展開してきた。これらのキリスト教の歴史的展開と特徴を把握し、各時代を特徴づける人物や出来事を通して、キリスト教が思想(哲学)や文化の歴史に果たしてきた役割を理解する。	
	日本のキリスト教		キリスト教宣教の端緒から現代に至る日本キリスト教史を取り上げるとともに、各時代において重要な貢献を為したキリスト者(特に女性)に言及し、その生涯・思想を考察していく。また、日本におけるカトリック、オーソドクシー、プロテスタント及び無教会派の歴史及び特質を理解する。さらにキリスト教から影響を受けた日本の作品を取り上げ、その思想を考察する。	
	キリスト教の思想・文化		この講義は、西方教会圏(カトリック及びプロテスタント)における各国家共同体の文化思想の特色を理解することを目的とする。そのために、カトリシズム及びプロテスタンティズムの基本的な知識を把握し、各国家共同体の文化形成過程を概観しつつ、その独自の特色に言及していく。そしてそれらの文化形成を生み出したキリスト教思想を取り上げ、それらがいかんして各国家の文化形成の特色に影響を与えていったかを考察していく。	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	キリスト教と諸宗教		世界に存在する諸宗教の中からユダヤ教、イスラム教等を取り上げ、キリスト教とそれらの宗教の歴史や相互の影響関係を学ぶことにより、それぞれの宗教の特徴を理解し、現代の宗教事情を把握する。	
	キリスト教と芸術		キリスト教が芸術・文化に与えてきた影響や、キリスト教が生み出してきた芸術・文化について学び、芸術や文化形成におけるキリスト教の役割について理解を深める。	
	キリスト教と音楽		ユダヤ教から大きな影響を受けた初代教会の時代から、現代に至るキリスト教音楽の歩みを解説する。音楽史全般にわたる基本的な流れをふまえながら、中世から現代までの各時代の特徴的な様式、音楽上の技法、演奏形態等を把握しつつ、主にキリスト教的題材に基づく代表的な作品を DVD や CD 等の鑑賞を中心に紹介し、教会音楽のもつ魅力を探る。教会音楽を支えてきたパイプオルガンを使用してチャペルで授業を行う場合もある。	
	キリスト教講読		キリスト教思想の伝統から古典的文献を選び、そのテキストの精読を通じてキリスト教思想の精髓を深く理解する。そのために、テキストの時代的背景や著者の生涯についても学ぶとともに、近年の国内外の研究にも目を向ける。邦訳がある場合も、可能な範囲で原典と向き合う。	
G l o b a l  C i t i z e n s h i p  P r o g r a m 科 目	Integrated English A		<p>Integrated English A is a content and language integrated class in which students listen, watch, read and communicate with each other with interest and familiarity with various domains (different from those of Integrated English B), aiming to share their views on global English communities in English. Through rich English language input, students improve their language skills in vocabulary, grammar and pronunciation, and through communicative activities, they develop the ability to understand and use language appropriately and construct coherent writings. Students are assessed on their knowledge of grammar, ability to read academic essays and achievement of the English language skills required to study interdisciplinary fields.</p> <p>Integrated English Bと異なるグローバルな英語コミュニティにおけるトピックについて、学際分野を学ぶために必要な英語力と、複眼的思考力をもった内容の理解力を育成する、内容言語統合型授業である。英語で自分自身の意見を発信し、聞く、読む、文章を作る、興味を持ってコミュニケーションをとる活動を通して、異なる領域への関心や共感を深める。同時に、豊富な英語のインプットを通して、語彙、文法、発音面の言語能力を向上させ、コミュニケーション活動を通して、文脈の中で言語を理解し使用する能力や文章を構成する力を習得する。</p>	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	Integrated English B		<p>Integrated English A is a content and language integrated class in which students listen, watch, read and communicate with each other with interest and familiarity with various domains (different from those of Integrated English A), aiming to share their views on global English communities in English. Through rich English language input, students improve their language skills in vocabulary, grammar and pronunciation, and through communicative activities, they develop the ability to understand and use language appropriately and construct coherent writings. Students are assessed on their knowledge of grammar, ability to read academic essays and achievement of the English language skills required to study interdisciplinary fields.</p> <p>Integrated English Aと異なるグローバルな英語コミュニティにおけるトピックについて、学際分野を学ぶために必要な英語力と、複眼的思考力をもった内容の理解力を育成する、内容言語統合型授業である。英語で自分自身の意見を発信し、聞く、読む、文章を作る、興味を持ってコミュニケーションをとる活動を通して、異なる領域への関心や共感を深める。同時に、豊富な英語のインプットを通して、語彙、文法、発音面の言語能力を向上させ、コミュニケーション活動を通して、文脈の中で言語を理解し使用する能力や文章を構成する力を習得する。</p>	
	Integrated English C		<p>Integrated English C is a content and language integrated class in which students listen, watch, read and communicate with each other with interest and familiarity with various domains (different from those of Integrated English D), aiming to share their views on global English communities in English. Through rich English language input, students will improve their language skills in terms of vocabulary, grammar and pronunciation. Furthermore, through communicative activities, they will develop the ability to understand and use language in context to construct coherent texts. Students are assessed on their understanding of content, application of critical thinking skills and achievement of the English language skills required to study interdisciplinary fields. Students will also develop their skills in making presentations.</p> <p>Integrated English Dと異なるグローバルな英語コミュニティにおけるトピックについて、学際分野を学ぶために必要な英語力と、複眼的思考力をもった内容の理解力を育成する、内容言語統合型授業である。英語で自分自身の意見を発信し、聞く、読む、文章を作る、興味を持ってコミュニケーションをとる活動を通して、異なる領域への関心や共感を深める。同時に、豊富な英語のインプットを通して、語彙、文法、発音面の言語能力を向上させ、コミュニケーション活動を通して、文脈の中で言語を理解し使用する能力や文章を構成する力を身につけ、英語でプレゼンテーションするスキルを習得する。</p>	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	Integrated English D		<p>Integrated English D is a content and language integrated class in which students listen, watch, read and communicate with each other with interest and familiarity with various domains (different from those of Integrated English C) aiming to share their views on global English communities in English. Through rich English language input, students will improve their language skills in terms of vocabulary, grammar and pronunciation. Furthermore, through communicative activities, they will develop the ability to understand and use language in context to construct coherent texts. Students are assessed on their understanding of content, application of critical thinking skills and achievement of the English language skills required to study interdisciplinary fields. Students will also develop their skills in making presentations.</p> <p>Integrated English Cと異なるグローバルな英語コミュニティにおけるトピックについて、学際分野を学ぶために必要な英語力と、複眼的思考力をもった内容の理解力を育成する、内容言語統合型授業である。英語で自分自身の意見を発信し、聞く、読む、文章を作る、興味を持ってコミュニケーションをとる活動を通して、異なる領域への関心や共感を深める。同時に、豊富な英語のインプットを通して、語彙、文法、発音面の言語能力を向上させ、コミュニケーション活動を通して、文脈の中で言語を理解し使用する能力や文章を構成する力を身につけ、英語でプレゼンテーションするスキルを習得する。</p>	
	Global Studies Seminar A		<p>This course provides a student-centered flipped classroom that utilises MOOCs (Massive Open Online Courses) offered by universities where English is used as a medium of instruction, intending to develop skills needed to engage in studying at universities abroad. Learners will watch lectures online and engage in interactive tasks such as reading, writing, and thinking to deepen their understanding of the content. In the classroom, knowledge and understanding will be established through discussions and presentations. Students will interact with diverse learners from overseas university communities with different cultural backgrounds, communicate in English through cross-cultural experiences online, and develop the English ability to express their own opinions.</p> <p>英語圏の大学が提供するMOOC (Massive Open Online Course) を活用した学習者主体の反転授業を行い、海外の大学留学に必要なスキルを身につける。学習者は、オンラインでGlobal Studies Seminar B と異なるテーマについての英語講義を視聴し、読む、書く、考えるなどの双方向タスクに取り組み、テーマ内容の理解を深める。一方、教室ではディスカッションやプレゼンテーションを通して、知識や理解の定着をはかる。文化的背景の異なる海外の大学コミュニティにおける多様な学習者と交わり、オンラインによる異文化体験を通して、英語でコミュニケーションをとり、自分の意見を発信する英語力をつける。</p>	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	Global Studies Seminar B		<p>This course provides a student-centered flipped classroom that utilises MOOCs (Massive Open Online Courses) offered by universities where English is used as a medium of instruction, intending to develop skills needed to engage in studying at universities abroad. Learners will watch lectures online and engage in interactive tasks such as reading, writing, and thinking to deepen their understanding of the content. In the classroom, knowledge and understanding will be established through discussions and presentations. Students will interact with diverse learners from overseas university communities with different cultural backgrounds, communicate in English through cross-cultural experiences online, and develop the English ability to express their own opinions.</p> <p>英語圏の大学が提供するMOOC (Massive Open Online Course) を活用した学習者主体の反転授業を行い、海外の大学留学に必要なスキルを身につける。学習者は、オンラインでGlobal Studies Seminar A と異なるテーマについての英語講義を視聴し、読む、書く、考えるなどの双方向タスクに取り組み、テーマ内容の理解を深める。一方、教室ではディスカッションやプレゼンテーションを通して、知識や理解の定着をはかる。文化的背景の異なる海外の大学コミュニティにおける多様な学習者と交わり、オンラインによる異文化体験を通して、英語でコミュニケーションをとり、自分の意見を発信する英語力をつける。</p>	
	Global Liberal Arts A		<p>The course will focus on lectures given in English by faculty members of TWCU on contemporary topics related to their fields of specialization. There will be three sets of the following: "Preparation for the lecture," "Lecture and Q&amp;A," "Group discussion on the lecture," and "Class discussion. The course will cover topics in three different areas from Global Liberal Arts B.</p> <p>東京女子大学現代教養学部の教員が、その専門に関連する現代的トピックについて英語で行う講義を中心に展開される。「講義前準備課題、講義と質疑応答、講義を振り返ってのグループディスカッション、全体討論」を3セット行う。自身の専門領域あるいは異領域についての専門的な話題について、英語で調べ、聞き、意見交換し、考察する力を養う。Global Liberal Arts Bとは異なる3つの領域のトピックを扱う。</p>	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	Global Liberal Arts B		<p>The course will focus on lectures given in English by faculty members of TWCU on contemporary topics related to their fields of specialization. There will be three sets of the following: "Preparation for the lecture," "Lecture and Q&amp;A," "Group discussion on the lecture," and "Class discussion. The course will cover topics in three different areas from Global Liberal Arts A.</p> <p>東京女子大学現代教養学部の教員が、その専門に関連する現代的トピックについて英語で行う講義を中心に展開される。「講義前準備課題、講義と質疑応答、講義を振り返ってのグループディスカッション、全体討論」を3セット行う。自身の専門領域あるいは異領域についての専門的な話題について、英語で調べ、聞き、意見交換し、考察する力を養う。Global Liberal Arts Aとは異なる3つの領域のトピックを扱う。</p>	
	Study Abroad Preparatory English		<p>This course aims to help students acquire and consolidate the academic skills necessary for studying at an English-speaking university. Furthermore, they will acquire knowledge through reading, discussing and debating academic references in English. In this study-abroad preparatory course, students will read a wide range of references, increase their reading speed, and learn how to do turn-taking effectively in group discussions. Students will also learn to use formal language and improve their English language skills to adapt to the actual study environment in the host country.</p> <p>英米圏の大学留学に必要なアカデミックスキルの習得と定着を目標に、英語の学術書や文献を読み、議論し討論することで知識を身につける。さまざまな文献を多く読み、読むスピードを上げ、グループディスカッションでの効果的なターンテイクの方法も学ぶ。また、留学先での実際の学習環境に適したフォーマルな表現を学び、英語力を向上させる。</p>	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	Post-SA Research Seminar		<p>In this course, students deepen their understanding of global topics based on their study abroad experience and achievements. Collaborative Online International Learning (COIL) will be applied by connecting and collaborating with speakers and students from abroad online to work on a common research topic. Students will practice spontaneous and logical explanations needed to collaborate in English online, and develop the skills to lead discussions in English.</p> <p>協定校留学をもとに、グローバルなテーマへの理解を深めるため、海外のスピーカーや学生とCollaborative Online International Learning (COIL) などを活用し、共通の研究テーマに取り組む。協働学習に参加し、議論を展開しながら、さまざまな分野についての理解を深める。</p>	
	Global Citizenship Workshop I		<p>Based on the learning in the Global Citizenship Program, students further develop their knowledge and skills. The content of each research will be presented in English in a manner that can be understood by non-specialists. This will be developed through repeated question-and-answer sessions. Classes are conducted in a student-centered workshop format.</p> <p>Global Citizenship Programでの学びをもとに、自分の専攻分野での知識を深め、成果発表に向けて準備する。その際、専門分野以外の人が、研究テーマを理解できる英語で発表することが求められる。授業は、学生中心のワークショップ形式で行われ、発表と質疑応答を繰り返しながら技能を向上させる。</p>	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	Global Citizenship Workshop II		<p>Based on the learning in the Global Citizenship Program, students further develop their knowledge and skills and write a high quality graduation thesis/graduation research. The content of each graduation thesis/research will be presented in English in a manner that can be understood by non-specialists. This will be developed through a number of question-and-answer sessions. Classes are conducted in a student-centered workshop format.</p> <p>Global Citizenship Programでの学びをもとに、自分の専攻分野の知識と統合し、質の高い卒業論文の執筆に向けた成果発表に挑む。最終の公開プレゼンテーションでは、専門分野以外の方が、研究テーマを理解できる英語で発表することが求められる。授業は、学生中心のワークショップ形式で行われ、発表と質疑応答の手法を繰り返し、技能を習得する。</p>	
	SA-based Global English		<p>Through this study abroad program, students learn about the current situation and current affairs in the fields such as culture, socio-economics, history, community, and information in the world, and nurture the skills necessary to develop individuals who can play an active role in global society.</p> <p>英語圏への協定校留学に参加したGlobal Citizenship Program生が、所定の成績を修めた場合の単位認定科目である。文化、社会経済、歴史、コミュニティ、情報など各種分野における世界の情勢に関する実態や、時事問題について学び、グローバル社会において活躍できる地球市民となるために必要な力を育成する。</p>	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
第一外国語科目	Academic Discussion Skills A	○	<p>Based on a philosophy of learning in Liberal Arts Education, we aim to apply an interdisciplinary approach to the teaching of Academic English. Students will learn the foundational skills to process new information and integrate different sources. They will acquire the ability to self-regulate their learning, reflect on their progress and develop plans to meet their goals. Students will take part in small group discussions as active participants or discussion leaders. They will summarise the main ideas from academic lectures, and discuss their understanding of and personal reactions to those topics.</p> <p>リベラル・アーツ教育の学習理念にもとづき、アカデミック・イングリッシュの指導に学際的な方法を応用する。学生は新たな情報を処理し様々な資料に由来する情報をまとめあげる基礎的なスキルを学ぶ。自律的に学習し、自身の進歩について省察し、目標を達成するための計画を作成する。少人数のグループ・ディスカッションに積極的に参加し、ファシリテーターの役割も経験する。講義の要点をまとめ、講義内容のトピックに関する理解や個人の意見について議論する。</p>	
	Academic Discussion Skills B	○	<p>Based on a philosophy of learning in Liberal Arts Education, we aim to apply an interdisciplinary approach to the teaching of Academic English. Students will learn the foundational skills to process new information and integrate different sources. They will acquire the ability to self-regulate their learning, reflect on their progress and develop plans to meet their goals. Students will continue to develop their note-taking skills such as listening for lecture structure language and using abbreviations. Students will have further practice in responding to the ideas and issues presented in the lectures by participating actively in pair, group and whole class discussions.</p> <p>リベラル・アーツ教育の学習理念にもとづき、アカデミック・イングリッシュの指導に学際的な方法を応用する。学生は新たな情報を処理し様々な資料に由来する情報をまとめあげる基礎的なスキルを学ぶ。自律的に学習し、自身の進歩について省察し、目標を達成するための計画を作成する。学生は講義の構成を示す表現に注意を払って聴き、略語の使用によってノートを取るスキルをさらに向上させる。ペア、グループ、クラス全体でのディスカッションに積極的に参加することで、講義で示された発想や問題に対する自分の意見を述べる実践練習をさらに重ねる。</p>	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	Academic Reading Skills A	○	<p>Based on a philosophy of learning in Liberal Arts Education, we aim to apply an interdisciplinary approach to the teaching of Academic English. Students will learn the foundational skills to process new information and integrate different sources. They will acquire the ability to self-regulate their learning, reflect on their progress and develop plans to meet their goals. In this course, students will develop their academic reading skills by: doing timed readings to increase reading speed; reading extensively to build reading fluency and vocabulary knowledge; and reading intensively to learn about academic, thought-provoking topics.</p> <p>リベラル・アーツ教育の学習理念にもとづき、アカデミック・イングリッシュの指導に学際的な方法を応用する。学生は新たな情報を処理し様々な資料に由来する情報をまとめあげる基礎的なスキルを学ぶ。自律的に学習し、自身の進歩について省察し、目標を達成するための計画を作成する。この科目では、学生は以下の方法によって学術的な読解力を向上させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・制限時間を設定した読解練習によって、読む速さを向上させる。</li> <li>・多読を通じて、読解力を養い、語彙の知識を構築する。</li> <li>・精読を通じて、学術的で啓発的なトピックについて学ぶ。</li> </ul>	
	Academic Reading Skills B	○	<p>Based on a philosophy of learning in Liberal Arts Education, we aim to apply an interdisciplinary approach to the teaching of Academic English. Students will learn the foundational skills to process new information and integrate different sources. They will acquire the ability to self-regulate their learning, reflect on their progress and develop plans to meet their goals. Students will continue to develop different facets of their reading abilities. They will continue to practice academic reading strategies so they are prepared to tackle more challenging texts on their own. They will identify text organisation, main ideas, and respond critically to the content.</p> <p>リベラル・アーツ教育の学習理念にもとづき、アカデミック・イングリッシュの指導に学際的な方法を応用する。学生は新たな情報を処理し様々な資料に由来する情報をまとめあげる基礎的なスキルを学ぶ。自律的に学習し、自身の進歩について省察し、目標を達成するための計画を作成する。学生は様々な側面における読解力の向上を継続する。さらに、より難易度の高い文章の読解に自力で取り組むことができるよう、さまざまな読解方略の実践練習を重ねる。加えて、文章の構成や要点を理解した上で、内容に対して批判的に反応する。</p>	
	Academic Writing Skills I	○	<p>Based on a philosophy of learning in Liberal Arts Education, we aim to apply an interdisciplinary approach to the teaching of Academic English. Students will learn the foundational skills to process new information and integrate different sources. They will acquire the ability to self-regulate their learning, reflect on their progress and develop plans to meet their goals. The emphasis in this course is on developing academic vocabulary in use through authentic texts, guiding the student to produce well structured paragraphs. Critical thinking skills are at the core of all tasks, enabling students to express their thoughts logically, with reasons to support them.</p> <p>リベラル・アーツ教育の学習理念にもとづき、アカデミック・イングリッシュの指導に学際的な方法を応用する。学生は新たな情報を処理し様々な資料に由来する情報をまとめあげる基礎的なスキルを学ぶ。自律的に学習し、自身の進歩について省察し、目標を達成するための計画を作成する。</p> <p>この科目では、学術的な文章の原文を扱う課題を通じて、学術的な語彙を習得することに重点を置き、学生がしっかりとした構造を持つパラグラフを作成できるよう指導する。学生が裏付けとなる根拠を挙げて自らの考えを論理的に表現することを可能にする、批判的思考力の養成を全ての課題の中心に置く。</p>	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	Academic Writing Skills II	○	<p>Based on a philosophy of learning in Liberal Arts Education, we aim to apply an interdisciplinary approach to the teaching of Academic English. Students will learn the foundational skills to process new information and integrate different sources. They will acquire the ability to self-regulate their learning, reflect on their progress and develop plans to meet their goals. This course will develop students' abilities to convey their ideas in a logical manner with reasons and evidence. They will build on what they learned about sentence and paragraph structure to write longer pieces of academic writing. Students will continue to develop their writing fluency and vocabulary knowledge by doing timed-writings.</p> <p>リベラル・アーツ教育の学習理念にもとづき、アカデミック・イングリッシュの指導に学際的な方法を応用する。学生は新たな情報を処理し様々な資料に由来する情報をまとめあげる基礎的なスキルを学ぶ。自律的に学習し、自身の進歩について省察し、目標を達成するための計画を作成する。</p> <p>この科目では、学生が理由と根拠を挙げて自らの考えを論理的に述べる力を養成する。文と段落の構造について学習した内容に立脚して、より長い学術的な文章を書く力を身につける。制限時間内に文章を書くアクティビティを通して、流暢に書く力と語彙力を高める。</p>	
	Exploring Content: Listening/Speaking A	○	<p>Building on the academic skills learnt in Year 1, students will apply their critical thinking skills to evaluate the reliability of sources in different academic tasks. Students will learn how to respond to content in an original way and become confident in expressing their own ideas. They will also develop their ability to learn collaboratively. This course will enable students to practice and hone the academic skills they learned in year 1 and apply them to academic lectures and discussions. The emphasis will be on learning new content related to academic topics. Students will summarise, discuss and make individual or group presentations related to these topics.</p> <p>1年次で習得したアカデミック・スキルに立脚し、様々な課題に取り組む際に批判的思考を応用して情報源の信頼性を評価する。学生は資料の内容に対して独創的に反応し、自信を持って自らの考えを表現することを学ぶ。共同学習をする力も向上させる。</p> <p>この科目では、学生は1年次で学習したアカデミック・スキルを講義の受講やディスカッションに応用する実践練習を積む。学術的なトピックに関連する新たな内容を学ぶことに重点を置き、学生はこれらのトピックに関する要約と議論に加え、個人やグループでの発表を行う。</p>	
	Exploring Content: Listening/Speaking B	○	<p>Building on the academic skills learnt in Year 1, students will apply their critical thinking skills to evaluate the reliability of sources in different academic tasks. Students will learn how to respond to content in an original way and become confident in expressing their own ideas. They will also develop their ability to learn collaboratively. This course will enable students to practice and hone the academic skills they learned in year 1 and apply them to academic lectures and discussions. The emphasis will be on learning new content related to academic topics that are different from Exploring Content: Listening/Speaking A. Students will summarize, discuss, and make individual, or group presentations related to these topics.</p> <p>1年次で習得したアカデミック・スキルに立脚し、様々な課題に取り組む際に批判的思考を応用して情報源の信頼性を評価する。学生は資料の内容に対して独創的に反応し、自信を持って自らの考えを表現することを学ぶ。共同学習をする力も向上させる。</p> <p>この科目では、1年次で習得したアカデミック・スキルを講義の受講やディスカッションに応用する実践練習を積む。Exploring Content: Listening/Speaking Aで扱った内容とは異なる学術的なトピックについての新たな内容の学習に重点を置く。学生は、これらのトピックに関する要約と議論に加え、個人やグループでの発表を行う。</p>	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	Exploring Content: Reading/Writing A	○	<p>Building on the academic skills learnt in Year 1, students will apply their critical thinking skills to evaluate the reliability of sources in different academic tasks. Students will learn how to respond to content in an original way and become confident in expressing their own ideas. They will also develop their ability to learn collaboratively. This course will enable students to practice and hone the academic skills they learned in year 1 and apply them to academic reading and discussions. The emphasis will be on learning new content related to academic topics through reading. Students will summarise, discuss and respond to content through written tasks including summaries and critical evaluations.</p> <p>1年次で習得したアカデミック・スキルに立脚し、様々な課題に取り組む際に批判的思考を応用して情報源の信頼性を評価する。学生は資料の内容に対して独創的に反応し、自信を持って自らの考えを表現することを学ぶ。共同学習をする力も向上させる。</p> <p>この科目では、学生は1年次で習得したアカデミック・スキルを学術的な文章の読解やディスカッションに応用する実践練習を積む。リーディングを通じて、学術的なトピックについての新たな内容を学習することに重点が置かれる。ライティングの課題には、文章の内容の要約と批判的な評価を書くことが含まれる。これらの課題を通して、学生は読解した内容を要約し、議論し、内容に対する自身の考えを述べる。</p>	
	Exploring Content: Reading/Writing B	○	<p>Building on the academic skills learnt in Year 1, students will apply their critical thinking skills to evaluate the reliability of sources in different academic tasks. Students will learn how to respond to content in an original way and become confident in expressing their own ideas. They will also develop their ability to learn collaboratively. This course will enable students to practice and hone the academic skills they learned in year 1 and apply them to academic reading and discussions. The emphasis will be on learning new content related to academic topics that are different from Exploring Content: Reading/Writing A through reading. Students will summarize, discuss, and respond to content through written tasks including summaries and critical evaluations.</p> <p>1年次で習得したアカデミック・スキルに立脚し、様々な課題に取り組む際に批判的思考を応用して情報源の信頼性を評価する。学生は資料の内容に対して独創的に反応し、自信を持って自らの考えを表現することを学ぶ。共同学習をする力も向上させる。</p> <p>この科目では、学生は1年次で習得したアカデミック・スキルを学術的な文章の読解やディスカッションに応用する実践練習を積む。リーディングを通じて、Exploring Content: Reading/Writing Aで扱った内容とは異なる学術的なトピックについての新たな内容を学ぶことに重点が置かれる。ライティングの課題には、文章の要約と批判的な評価を書くことが含まれる。これらの課題を通して、学生は読解した内容を要約し、議論し、内容に対する自身の考えを述べる。</p>	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	Presenting Research		<p>Building on the academic skills in the first year programme, students will further develop their research skills and cultivate their awareness in thinking critically about their research. By working in collaboration with other students, learners will become equipped with the tools they need to discover solutions with a view to making a contribution to the knowledge of the world. This course is designed to help students develop their presentation skills. The course will equip students with essential skills to deliver compelling academic presentations derived from their literature reviews or research findings. It will allow them to improve their presentation skills, including planning, drafting, and revising their speeches and using presentation-specific academic vocabulary. Students will also have ample opportunities to build confidence through a variety of presentation formats, including small-group, pair, and individual presentations. They will be able to refine their presentations through peer and instructor feedback and become more effective communicators.</p> <p>1年次で習得したアカデミック・スキルに立脚し、リサーチ・スキルをさらに発展させ、自らのリサーチについて批判的に思考する意識を養成する。学習者は、他の学生との共同作業によって、世界の知に貢献するための解決方法を見出すうえで必要なツールを身につける。</p> <p>この科目は、プレゼンテーション・スキルの向上を目的とし、文献のレビューや研究結果に基づいた説得力のあるプレゼンテーションを行うために必須のスキルを習得する。スピーチの立案、草稿の作成、推敲、プレゼンテーションで特に用いられるアカデミックな語彙の使用を含む、プレゼンテーションのスキルを向上させる。加えて、少人数のグループ、ペア、個人によるプレゼンテーションなど、学生が様々なプレゼンテーション形式を通じて自信をつける機会も十分に提供する。他の学生や教員からのフィードバックを通じてプレゼンテーションを洗練させ、より効果的なコミュニケーション能力を身につける。</p>	
	Writing Research Papers		<p>Building on the academic skills in the first year programme, students will further develop their research skills and cultivate their awareness in thinking critically about their research. By working in collaboration with other students, learners will become equipped with the tools they need to discover solutions with a view to making a contribution to the knowledge of the world. This course is designed for students who are interested in improving their academic writing skills. The course focuses on developing critical thinking and creativity skills to help students produce high-quality research papers with examples from the disciplines of Humanities, Social Sciences, Education, Psychology and Science, among others. Through a series of lectures, assignments, and workshops, students will learn how to evaluate sources, analyze data, and develop arguments in a clear and concise manner. The course will also equip students with essential academic skills, such as independent learning, effective time management, and research methods.</p> <p>1年次で習得したアカデミック・スキルに立脚し、リサーチ・スキルをさらに発展させ、自らのリサーチについて批判的に思考する意識を養成する。学習者は、他の学生との共同作業によって、世界の知に貢献するための解決方法を見出すうえで必要なツールを身につける。</p> <p>この科目はアカデミック・ライティングのスキル向上に関心のある学生を対象とする。人文科学、社会科学、教育学、心理学、科学等の様々な分野の例を扱い、質の高い論文を作成する一助となる批判的思考力と創造性を向上させることに焦点を当てる。学生は講義、課題、ワークショップを通じて、資料の評価、データ分析、明晰で簡潔な議論展開の方法を学ぶ。加えて、自律的な学習、効果的な時間管理、研究方法等、必須のアカデミック・スキルも身につける。</p>	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	Media Literacy		<p>Building on the academic skills in the first year programme, students will further develop their research skills and cultivate their awareness in thinking critically about their research. By working in collaboration with other students, learners will become equipped with the tools they need to discover solutions with a view to making a contribution to the knowledge of the world.</p> <p>This course will enhance students' understanding of media-related vocabulary and concepts and foster their media literacy skills. It will prepare students to deconstruct media messages by identifying message creators, intended audiences, and message goals. This process will enable students to become independent, critical consumers of media. In addition, students will produce reports resembling newspaper articles, which will give them the opportunity to apply their newfound skills in a real-world setting.</p> <p>1年次で習得したアカデミック・スキルに立脚し、リサーチ・スキルをさらに発展させ、自らのリサーチについて批判的に思考する意識を養成する。学習者は、他の学生との共同作業によって、世界の知に貢献するための解決方法を見出すうえで必要なツールを身に着ける。</p> <p>この科目は、メディアに関連する語彙や概念についての学生の理解を深め、メディア・リテラシーを育成する。メッセージの作成者、メッセージが対象とする読者、メッセージの目標を特定することで、学生がメディア・メッセージを分解して分析する準備を整える。このプロセスを通して、学生が独立した批判的思考を行うメディア消費者となることを目指す。加えて、学生は新聞記事のようなレポートを作成する。これにより、学生は新しいスキルを実践する機会を得る。</p>	
	English through Literature		<p>This course is designed for students to study content through an interdisciplinary approach. This will provide students the opportunity to explore across the disciplines to form an intellectual grounding. Students will learn the language used in different subjects in order to articulate their own thinking in a critical manner.</p> <p>In this content-based course students will develop their critical thinking skills and creativity by:</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. learning about how literature, including drama, has been performed through video analysis.</li> <li>2. enhancing knowledge of different genres of literature through the performance of works of literature in groups.</li> <li>3. developing an understanding of key literary concepts and putting these to use in analysis of literary texts.</li> </ol> <p>この科目は、学生が学際的なアプローチを通して学ぶことを目的とする。これにより、学生は知的基盤を形成するために、分野を超えて探求する機会を得ることができる。学生は、自分の考えを批判的に表現するために、異なる分野・科目で使用される言語を学ぶ。</p> <p>内容重視型の本授業では、批判的思考力および創造力を養うために、以下を習得する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 演劇を含む文学がどのように上演されてきたか、映像分析を通じて学ぶ。</li> <li>2. グループで文学作品の上演を通じて、さまざまなジャンルの文学についての知識を高める。</li> <li>3. 重要な文学的概念の理解を深め、文学作品の分析にそれらを活用する。</li> </ol>	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	Topics in Language Study		<p>This course is designed for students to study content through an interdisciplinary approach. This will provide students the opportunity to explore across the disciplines to form an intellectual grounding. Students will learn the language used in different subjects in order to articulate their own thinking in a critical manner.</p> <p>This course introduces topics of language study from fields such as technology, education, journalism, literature, medicine, sociology, philosophy, behavioral science, marketing, nutritional science, psychology, art history, new technologies, and more. Students will examine a diverse range of topics, taking a global education approach to language study which will improve their English in all four skills while also empowering them to become world citizens.</p> <p>この科目は、学生が学際的なアプローチを通して学ぶことを目的とする。これにより、学生は知的基盤を形成するために、分野を超えて探求する機会を得ることができる。学生は、自分の考えを批判的に表現するために、異なる分野・科目で使用される言語を学ぶ。</p> <p>この科目はテクノロジー、教育、ジャーナリズム、文学、医学、社会学、哲学、行動科学、マーケティング、栄養学、心理学、美術史、新たなテクノロジー等の多岐にわたる分野から選択された、語学学習のトピックを紹介する。グローバル教育のアプローチ法を語学学習に取り入れ、多様なトピックを検証することにより、学生が英語の4技能すべてを向上させるとともに、世界市民になることを可能にする。</p>	
	Topics in Arts and Sciences		<p>This course is designed for students to study content through an interdisciplinary approach. This will provide students the opportunity to explore across the disciplines to form an intellectual grounding. Students will learn the language used in different subjects in order to articulate their own thinking in a critical manner.</p> <p>Topics that this course covers can range from topics from the fields of sociology, philosophy, political science, psychology, history, art history, anthropology, human rights, bioethics, migration studies, and AI. Students will improve their language skills through engaging discussions, readings, and activities while gaining discipline-specific knowledge. The course encourages critical thinking and global awareness, improves students' English language proficiency, and broadens their intellectual horizons.</p> <p>この科目は、学生が学際的なアプローチを通して学ぶことを目的とする。これにより、学生は知的基盤を形成するために、分野を超えて探求する機会を得ることができる。学生は、自分の考えを批判的に表現するために、異なる分野・科目で使用される言語を学ぶ。</p> <p>この科目は社会学、哲学、政治学、心理学、歴史、美術史、人類学、人権、生命倫理、移住研究、AIなど幅広いトピックを取り扱う。学生は各分野特有の知識を得ながら、興味深いディスカッション、リーディング、その他のアクティビティを通じて言語スキルを向上させていく。批判的思考とグローバルな認識を奨励し、学生の英語運用能力を向上させ、知的視野を広げることを目的とする。</p>	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	IELTS		<p>Developing their academic skills, students will practice all four components of the IELTS exam. By cultivating these academic tools, learners will apply these skills to other courses and become more independent in making decisions in their approach to learning. The course will prepare students to study abroad as well as in Japan, as IELTS is an internationally recognised exam.</p> <p>This course will introduce the core strategies for achieving test-success. Students will learn more about how each section is scored and thoroughly understand the band descriptors which describe written and spoken performance. They will prepare for the test using a critical-thinking approach to a wide range of topics.</p> <p>アカデミックなスキルを身につけるため、IELTS試験の4つのコンポーネントすべてをカバーする。学生は、これらのスキルを他の科目にも応用し、学習へのアプローチにおいてより自律した意思決定を行うことができるようになる。IELTSは国際的に認められている試験であるため、このコースは日本での学習だけでなく海外留学の準備にもなる。</p> <p>この科目は、語学検定試験で成功するための主要な方法を紹介する。学生は各セクションがどのように採点されるかを学び、筆記および口頭試験でのパフォーマンスを評する採点基準を徹底的に理解する。加えて、幅広いトピックに対する批判的思考を用いたアプローチによって、語学検定試験の準備をする。</p>	
	Business English		<p>This course provides the opportunity for students to develop their professional English skills both for seeking employment and on-the-job situations. Students will cultivate their ability to work with diverse groups of people and develop their communication as well as intercultural skills.</p> <p>This course will prepare students for their participation in the international arena in future. Through the activities which include reading excerpts of authentic materials such as newspapers addressed to the international readership, together with participation in group works evoking real-life business scenes, it enables students to learn the basics of business English and communication skills including reading and writing business related documents, writing CVs, attending job interviews, and so on. Through the observation of the examples of business-related expressions and conversations, students will deepen their understanding of different cultures and senses of values, while looking at various topics in the contemporary society from a wider perspective.</p> <p>この科目は、就職活動や仕事上の場面で、専門的な英語力を身につける機会を提供する。多様な人々と仕事をする能力を養い、コミュニケーション能力だけでなく、異文化対応能力も習得する。</p> <p>この科目は学生が将来国際的な舞台に参加するための準備を整えることを目的とする。国際的な読者を対象とする新聞の原文の抜粋等の読解や、現実のビジネス・シーンを想起させるグループ・ワーク等のアクティビティを通じて、学生はビジネスに関連する文書の読み書き、履歴書の書き方、面接の出席等を含む、ビジネス英語とコミュニケーション・スキルの基礎を学ぶ。加えて、ビジネスに関わる表現や会話の例等の観察を通して、異なる文化や価値観への理解を深め、現代社会の様々なトピックの一端をより広い視野から捉える。</p>	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	Pronunciation		<p>This course is designed to enhance skills necessary for succeeding in academic communication. Students will be able to consolidate their ability to gain knowledge and study effectively. They can become learners who are able to reflect on their own strengths and weaknesses and become responsible for their successes.</p> <p>This course will develop students' pronunciation through practical activities and feedback and introduce them to pronunciations found in a wide range of Englishes.</p> <p>この科目は、学術的なコミュニケーションで成功するために必要なスキルを高めることを目的とする。学生は、得た知識を使って効果的に勉強する能力を固めることができるようになる。自分の長所と短所を振り返り、成功に責任を持つことができる学習者になることができる。</p> <p>この科目では、実践的なアクティビティとフィードバックを通じて学生の発音を向上させる。さらに、幅広い種類の英語に見られる様々な発音を紹介する。</p>	
	英語音声学		<p>英語独特の音声的特徴の基本的知識を学ぶとともに、英語の発音の仕方を身につけることを目的とする。母音の構成、子音の種類、音節の成り立ち、音のつながり(linking)、語・句・文の各レベルにおける強勢パターン、イントネーション、リズムなどについて、日本語との違いを念頭に置きながら学習する。同時に、CD教材やCALL教室のインタラクティブなトレーニングソフトなどを用いて、英語の発音の実践練習を行い、英語らしい発音の仕方を体得する。</p>	
	Extensive Reading		<p>This course is designed to enhance skills necessary for succeeding in academic communication. Students will be able to consolidate their ability to gain knowledge and study effectively. They can become learners who are able to reflect on their own strengths and weaknesses and become responsible for their successes.</p> <p>Students will maintain a reading journal: recording book titles and word counts, summarising plot, and reacting personally to what they have read. Students will discuss the books in Literature Circles, taking turns in different roles (Discussion Leader, Summariser, Word Master, Culture Connector).</p> <p>この科目は、学術的なコミュニケーションで成功するために必要なスキルを高めることを目的とする。学生は、得た知識を使って効果的に勉強する能力を固めることができるようになる。自分の長所と短所を振り返り、成功に責任を持つことができる学習者になることができる。</p> <p>この科目では学生は読書日誌を付け、読んだ本のタイトルと文字数を記録し、プロットを要約し、読んだ内容についての各自の視点からの考察を論述する。学生は少人数のグループ(文学サークル)を作り、多様な役割(ディスカッション・リーダー、要約担当者、ワード・マスター、文化コネクター)を交代で担当しながら、本について議論する。</p>	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	Study Skills		<p>This course is designed to enhance skills necessary for succeeding in academic communication. Students will be able to consolidate their ability to gain knowledge and study effectively. They can become learners who are able to reflect on their own strengths and weaknesses and become responsible for their successes.</p> <p>This course will equip students with essential study skills they need to succeed in their university courses. Emphasis will be given on how to develop their English abilities through online tools, apps as well as on-campus resources.</p> <p>この科目は、学術的なコミュニケーションで成功するために必要なスキルを高めることを目的とする。学生は、得た知識を使って効果的に勉強する能力を固めることができるようになる。自分の長所と短所を振り返り、成功に責任を持つことができる学習者になることができる。</p> <p>この科目では、学生は大学での学修を全うするために必要となる、必須の学習スキルを身につける。オンライン・ツール、アプリ、キャンパス内のリソースを通じて英語力を伸ばす方法に重点が置かれる。</p>	
	Intensive English		<p>この科目は、本学が企画し外国の大学が提供する語学研修（英語）、および本学があらかじめ認めた外国の大学が実施する語学研修（英語）に参加した学生が、所定の成績を修めた場合の単位認定科目である。語学研修は、聞き、話し、読み、書く4技能にわたる語学力の向上と異文化体験による自己研鑽をはかることを目的に実施され、参加学生のレベルを考慮したクラス編成により授業が行われる。学生には、事前学習会等への出席が義務付けられている他、準備段階から積極的に自己の語学力を高めていく努力が望まれる。</p>	
	日本語Ⅰ（入門）		<p>外国人留学生在が大学での学習に必要な基礎的な日本語スキルを習得することを目標とする。「日本語Ⅰ（入門）」は、入門として受講者の日本語能力を考慮し、運用能力の向上を目指す。受講者個々の理解度を確認しつつ、2名の担当者が相互に連絡・調整を行いながら進める。「日本語Ⅱ（応用）」とともに第一外国語の必修単位である。週4コマの授業。</p>	
	日本語Ⅱ（応用）		<p>外国人留学生在が大学での学習に必要な基礎的な日本語スキルを習得することを目標とする。「日本語Ⅰ（入門）」で学んだことを応用して、さらに日本語の運用能力の向上を目指す。専門科目等で必要な発表、プレゼンテーションの技術も修得する。受講生個々の理解度を確認しつつ、担当者相互に連絡・調整を行いながら進める。「日本語Ⅰ（入門）」とともに第一外国語の必修単位である。週4コマの授業。</p>	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
第二外国語科目	ドイツ語初級 1	○	初級1では、正確な発音、基本的な文法のシステム、日常生活に必要な表現、語彙の初歩を集中的に学び、言語運用に不可欠な基礎的な力を培う。 ドイツ語は、英語やオランダ語などとともに西ゲルマン語に属し、語彙や文法など様々な面で英語との共通点が多い。それゆえ、ドイツ語を学ぶことによって英語を客観的に見る視点を養い、類縁言語比較の面白さを感得できるようになることも視野に入れる。 異文化理解への目を開くと同時に、現代社会のグローバル化に伴い英語圏以外の地域に知識の幅を広げることを目的とする。	
	フランス語初級 1	○	初級1では、正確な発音、基本的な文法のシステム、日常生活に必要な表現、語彙の初歩を集中的に学び、言語運用に不可欠な基礎的な力を培う。論理的な明晰性と洗練を特徴とし、18世紀以降国際外交語としての地位を保ってきたフランス語は、ラテン語をもとにできた言語である。英語の語彙はラテン語やフランス語の影響を強く受けて発展してきたので、相互に学習を助け合える英仏2言語の学習が、国際人へと成長する第一歩となるよう、学力の向上を図る。異文化理解への目を開くと同時に、現代社会のグローバル化に伴い英語圏以外の地域に知識の幅を広げることを目的とする。	
	スペイン語初級 1	○	初級1では、正確な発音、基本的な文法のシステム、日常生活に必要な表現、語彙を集中的に学び、言語運用に不可欠な基礎的な力を培う。 スペイン語は、母語人口で世界第2位、国際連合の公用語の一つであり、公用語としている国も20カ国にのぼる。また、現代のアメリカ社会を学ぼうとするにはスペイン語は欠かせない。世界の人々と交流し、国際的にも通用し得る学力の習得に至るよう向上を図る。 異文化理解への目を開くと同時に、現代社会のグローバル化に伴い英語圏以外の地域に知識の幅を広げることを目的とする。	
	中国語初級 1	○	初級1では、正確な発音、音の表記に最も広く用いられているピンイン（ローマ字を用いる）、基本的な文法のシステム、日常生活に必要な表現、語彙を集中的に学び、言語運用に不可欠な基礎的な力を培う。 中国語は、東アジア歴史、文化について学び、これへの理解を深めようとする者にとって、欠かせない言語の一つである。異文化理解への目を開くと同時に、現代社会のグローバル化に伴い英語圏以外の地域に知識の幅を広げることを目的とする。	
	韓国語初級 1	○	初級1では、ハングルを覚え、正確な発音、基本的な文法のシステム、日常生活に必要な表現、語彙を集中的に学び、言語運用に不可欠な基礎的な力を培う。 日本語に非常によく似た外国語である韓国語は日本人にとって習得し易く、合理的に工夫された表音文字であるハングルを覚えたら、文法を習得するのは比較的容易である。しかし「似ている」と思われている隣り合う日韓の文化には大きく異なる面もある。韓国語の学習を通して、異なった文化や考え方に触れる貴重な機会ともさせる。異文化理解への目を開くと同時に、現代社会のグローバル化に伴い英語圏以外の地域に知識の幅を広げることを目的とする。	
	ドイツ語初級 2	○	初級2では、初級1の学修を受け、正確な発音、基本的な文法のシステム、日常生活に必要な表現、語彙を集中的に学び、言語運用に不可欠な基礎的な力を発展させる。一通りの基本学習を終えた後は、比較的平易な文の読解や作文練習などによって語彙や表現の拡大を目指す。 ドイツ語は、英語やオランダ語などとともに西ゲルマン語に属し、語彙や文法など様々な面で英語との共通点が多い。それゆえ、ドイツ語を学ぶことによって英語を客観的に見る視点を養い、類縁言語比較の面白さを感得できるようになることも視野に入れる。 異文化理解への目を開くと同時に、現代社会のグローバル化に伴い英語圏以外の地域に知識の幅を広げることを目的とする。	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	フランス語初級2	○	<p>初級2では、初級1の学修を受け、正確な発音、基本的な文法のシステム、日常生活に必要な表現、語彙を集中的に学び、言語運用に不可欠な基礎的な力を発展させる。一通りの基本学習を終えた後は、比較的平易な文の読解や作文練習などによって語彙や表現の拡大を目指す。</p> <p>論理的な明晰性と洗練を特徴とし、18世紀以降国際外交語としての地位を保ってきたフランス語は、ラテン語をもとにできた言語である。英語の語彙はラテン語やフランス語の影響を強く受けて発展してきたので、相互に学習を助け合える英仏2言語の学習が、国際人へと成長する第一歩となるよう、学力の向上を図る。異文化理解への目を開くと同時に、現代社会のグローバル化に伴い英語圏以外の地域に知識の幅を広げることを目的とする。</p>	
	スペイン語初級2	○	<p>初級2では、初級1の学修を受け、正確な発音、基本的な文法のシステム、日常生活に必要な表現、語彙を集中的に学び、言語運用に不可欠な基礎的な力を発展させる。一通りの基本学習を終えた後は、比較的平易な文の読解や作文練習などによって語彙や表現の拡大を目指す。</p> <p>スペイン語は、母語人口で世界第2位、国際連合の公用語の一つであり、公用語としている国も20カ国にのぼる。また、現代のアメリカ社会を学ぼうとするにはスペイン語は欠かせない。世界の人々と交流し、国際的にも通用し得る学力の習得に至るよう向上を図る。</p> <p>異文化理解への目を開くと同時に、現代社会のグローバル化に伴い英語圏以外の地域に知識の幅を広げることを目的とする。</p>	
	中国語初級2	○	<p>初級2では、初級1の学修を受け、正確な発音、音の表記に最も広く用いられているピンイン（ローマ字を用いる）、基本的な文法のシステム、日常生活に必要な表現、語彙を集中的に学び、言語運用に不可欠な基礎的な力を発展させる。一通りの基本学習を終えた後は、比較的平易な文の読解や作文練習などによって語彙や表現の拡大を目指す。</p> <p>中国語は、東アジア歴史、文化について学び、これへの理解を深めようとする者にとって、欠かせない言語の一つである。異文化理解への目を開くと同時に、現代社会のグローバル化に伴い英語圏以外の地域に知識の幅を広げることを目的とする。</p>	
	韓国語初級2	○	<p>初級2では、初級1の学修を受け、ハングルを覚え、正確な発音、基本的な文法のシステム、日常生活に必要な表現、語彙を集中的に学び、言語運用に不可欠な基礎的な力を発展させる。一通りの基本学習を終えた後は、比較的平易な文の読解や作文練習などによって語彙や表現の拡大を目指す。</p> <p>日本語に非常によく似た外国語である韓国語は日本人にとって習得し易く、合理的に工夫された表音文字であるハングルを覚えたら、文法を習得するのは比較的容易である。しかし「似ている」と思われている隣り合う日韓の文化には大きく異なる面もある。韓国語の学習を通して、異なった文化や考え方に触れる貴重な機会ともさせる。異文化理解への目を開くと同時に、現代社会のグローバル化に伴い英語圏以外の地域に知識の幅を広げることを目的とする。</p>	
	ドイツ語（読解）		<p>読解力の養成を主たる目標とし、幅広いジャンルのテキストを教材に用いて、さらに複雑な構文、発展的語彙の理解と習得に努める。テキストを隅々まで正確に精読する訓練と、限られた時間で長文の大意を掴む訓練の、両者を平行して行う。併せてテキストの背景をなすドイツ語圏の歴史・社会・文化への理解を一層深めることを図る。専攻する分野の学習や、社会人としての活動にも役立つよう、総合的な授業を行う。</p>	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	ドイツ語（会話）		初級で学んだ基礎の発展を目指す。専門科目履修に必要な外国語の力を、様々な教材を用いて養うと同時に、異なる言語文化の多様なあり方に接し、高度の一般教養を培う役割も果たす授業を設けている。本科目においては、聞く力をつけながら、口頭による表現力を向上させることを主眼とする。	
	ドイツ語（総合）		初級で習得した、正確な発音、基本的な文法のシステム、日常生活に必要な表現、語彙を発展させ、言語運用に不可欠な総合的な力を培う。この授業では各種検定試験合格を目的として、実用的な語学力を身につける訓練を行う。また専門科目履修に必要な外国語の力を、様々な教材を用いて養うと同時に、異なる言語文化の多様なあり方に接し、高度の一般教養を培う役割も果たす授業を設けている。	
	フランス語（読解）		読解力の養成を主たる目標とし、幅広いジャンルのテキストを教材に用いて、さらに複雑な構文、発展的語彙の理解と習得に努める。テキストを隅々まで正確に精読する訓練と、限られた時間で長文の大意を掴む訓練の、両者を平行して行う。併せてテキストの背景をなすフランス語圏の歴史・社会・文化への理解を一層深めることを図る。専攻する分野の学習や、社会人としての活動にも役立つよう、総合的な授業を行う。	
	フランス語（会話）		初級で学んだ基礎の発展を目指す。専門科目履修に必要な外国語の力を、様々な教材を用いて養うと同時に、異なる言語文化の多様なあり方に接し、高度の一般教養を培う役割も果たす授業を設けている。本科目においては、聞く力をつけながら、口頭による表現力を向上させることを主眼とする。	
	フランス語（総合）		初級で習得した、正確な発音、基本的な文法のシステム、日常生活に必要な表現、語彙を発展させ、言語運用に不可欠な総合的な力を培う。この授業では各種検定試験合格を目的として、実用的な語学力を身につける訓練を行う。また専門科目履修に必要な外国語の力を、様々な教材を用いて養うと同時に、異なる言語文化の多様なあり方に接し、高度の一般教養を培う役割も果たす授業を設けている。	
	スペイン語（読解）		読解力の養成を主たる目標とし、幅広いジャンルのテキストを教材に用いて、さらに複雑な構文、発展的語彙の理解と習得に努める。テキストを隅々まで正確に精読する訓練と、限られた時間で長文の大意を掴む訓練の、両者を平行して行う。併せてテキストの背景をなすスペイン語圏の歴史・社会・文化への理解を一層深めることを図る。専攻する分野の学習や、社会人としての活動にも役立つよう、総合的な授業を行う。	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	スペイン語（会話）		初級で学んだ基礎の発展を目指す。専門科目履修に必要な外国語の力を、様々な教材を用いて養うと同時に、異なる言語文化の多様なあり方に接し、高度の一般教養を培う役割も果たす授業を設けている。 本科目においては、聞く力をつけながら、口頭による表現力を向上させることを主眼とする。	
	スペイン語（総合）		初級で習得した、正確な発音、基本的な文法のシステム、日常生活に必要な表現、語彙を発展させ、言語運用に不可欠な総合的な力を培う。この授業では各種検定試験合格を目的として、実用的な語学力を身につける訓練を行う。また専門科目履修に必要な外国語の力を、様々な教材を用いて養うと同時に、異なる言語文化の多様なあり方に接し、高度の一般教養を培う役割も果たす授業を設けている。	
	中国語（読解）		読解力の養成を主たる目標とし、幅広いジャンルのテキストを教材に用いて、さらに複雑な構文、発展的語彙の理解と習得に努める。テキストを隅々まで正確に精読する訓練と、限られた時間で長文の大意を掴む訓練の、両者を平行して行う。併せてテキストの背景をなす中国語圏の歴史・社会・文化への理解を一層深めることを図る。専攻する分野の学習や、社会人としての活動にも役立つよう、総合的な授業を行う。	
	中国語（会話）		初級で学んだ基礎の発展を目指す。専門科目履修に必要な外国語の力を、様々な教材を用いて養うと同時に、異なる言語文化の多様なあり方に接し、高度の一般教養を培う役割も果たす授業を設けている。 本科目においては、聞く力をつけながら、口頭による表現力を向上させることを主眼とする。	
	中国語（総合）		初級で習得した、正確な発音、基本的な文法のシステム、日常生活に必要な表現、語彙を発展させ、言語運用に不可欠な総合的な力を培う。この授業では各種検定試験合格を目的として、実用的な語学力を身につける訓練を行う。また専門科目履修に必要な外国語の力を、様々な教材を用いて養うと同時に、異なる言語文化の多様なあり方に接し、高度の一般教養を培う役割も果たす授業を設けている。	
	韓国語（読解）		読解力の養成を主たる目標とし、幅広いジャンルのテキストを教材に用いて、さらに複雑な構文、発展的語彙の理解と習得に努める。テキストを隅々まで正確に精読する訓練と、限られた時間で長文の大意を掴む訓練の、両者を平行して行う。併せてテキストの背景をなす韓国語圏の歴史・社会・文化への理解を一層深めることを図る。専攻する分野の学習や、社会人としての活動にも役立つよう、総合的な授業を行う。	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	韓国語（会話）		初級で学んだ基礎の発展を目指す。専門科目履修に必要な外国語の力を、様々な教材を用いて養うと同時に、異なる言語文化の多様なあり方に接し、高度の一般教養を培う役割も果たす授業を設けている。 本科目においては、聞く力をつけながら、口頭による表現力を向上させることを主眼とする。	
	韓国語（総合）		初級で習得した、正確な発音、基本的な文法のシステム、日常生活に必要な表現、語彙を発展させ、言語運用に不可欠な総合的な力を培う。この授業では各種検定試験合格を目的として、実用的な語学力を身につける訓練を行う。また専門科目履修に必要な外国語の力を、様々な教材を用いて養うと同時に、異なる言語文化の多様なあり方に接し、高度の一般教養を培う役割も果たす授業を設けている。	
	中国と日本の文学文化A		近代における中国文学と日本文学のかかわりを中心に、両文化の交流の様相や相違点などについて多角的に考察する。初級で習得した中国語の能力を応用して実際に中国と日本の文学作品等を読み解き、さらに積極的な意見発表・問題提起を行うことを重視する。主な検討対象は明治期以降戦前・戦中期の文学・文化（小説・詩・評論その他）とするが、必要に応じて前近代の古典文化・文学についても参照する。併せて近現代における日中関係や中国の文化社会的背景の理解にも留意し、総合的に日本文化と中国文化への理解を深める。	
	中国と日本の文学文化B		近代における中国文学と日本文学のかかわりを中心に、両文化の交流の様相や相違点などについて多角的に考察する。初級で習得した中国語の能力を応用して実際に中国と日本の文学作品等を読み解き、さらに積極的な意見発表・問題提起を行うことを重視する。主な検討対象は明治期以降戦前・戦中期の文学・文化（小説・詩・評論その他）とするが、必要に応じて前近代の古典文化・文学についても参照する。併せて近現代における日中関係や中国の文化社会的背景の理解にも留意し、総合的に日本文化と中国文化への理解を深める。	
	ドイツの歴史と文化A		ドイツ語の読解力の養成と、ドイツ近現代史に関する基礎知識の習得、それを通じた広く現代ドイツ語圏文化の理解の深化を目標とする。テキストを隅々まで正確に精読する訓練と、限られた時間で長文の大意を掴む訓練の、両者を平行して行う。併せてテキストの背景をなすドイツ語圏の歴史・文化への理解を一層深めることを図る。専攻する分野の学習や、社会人としての活動にも役立つよう、総合的な授業を行う。	
	ドイツの歴史と文化B		ドイツ語の読解力の養成と、ドイツ近現代史に関する基礎知識の習得、それを通じた広く現代ドイツ語圏文化の理解の深化を目標とする。テキストを隅々まで正確に精読する訓練と、限られた時間で長文の大意を掴む訓練の、両者を平行して行う。併せてテキストの背景をなすドイツ語圏の歴史・文化への理解を一層深めることを図る。専攻する分野の学習や、社会人としての活動にも役立つよう、総合的な授業を行う。	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
ギリシア語・ラテン語科目	ギリシア語初級 1		西洋思想の源流であるギリシア哲学や新約聖書をより深く理解するためには、古典ギリシア語の単語や文法について一定の知識が必要となる。この授業では、音読の方法や名詞・動詞・形容詞の基礎的な変化を理解することを通じて、古典ギリシア語が持つ基本的な性格を概観することを目指す。	
	ギリシア語初級 2		この授業では、「ギリシア語初級 1」に引き続き古典ギリシア語の基礎文法の習得を進める。名詞・形容詞の第三変化や動詞の中動・受動相、接続法などを理解することを通じて、古典ギリシア語で書かれた原典を読み解く力の基礎を養う。	
	ラテン語初級 1		古代から中世を経て近代に至る長い歴史をもつラテン語の規範である古典ラテン語は、人文語科学を学ぶ者に必須の基本的教養である。この授業では、音読の方法や名詞・動詞・形容詞の基礎的な変化を理解することを通じて、古典ラテン語が持つ基本的な性格を概観することを目指す。	
	ラテン語初級 2		この授業では、「ラテン語初級 1」に引き続き古典ラテン語の基礎文法の習得を進める。動詞の直説法受動相各時制の人称変化、命令法、不定法、分詞の形などを理解することを通じて、古典ラテン語で書かれた原典を読み解く力の基礎を養う。	
	ギリシア語中級		この授業では、文法事項を確認したうえで、古典ギリシア語で書かれた原典を受講者とともに読み進めていくことにより、古典ギリシア語の時代的・文化的背景への理解を深めていく。	隔年
	ラテン語中級		この授業では、文法事項を確認したうえで、古典ラテン語で書かれた原典を受講者とともに読み進めていくことにより、古典ラテン語の時代的・文化的背景への理解を深めていく。	隔年

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
A I ・ データサイエンス科目	DS・ICT入門I	○	インターネットやAI・データサイエンスをはじめとした今日の情報通信社会で必要とされる基礎的な技能と概念を習得し、問題分析能力や問題解決能力を養うことを目的とする。コンピュータの基本操作、インターネット・WWW・電子メールの概念や仕組み、情報の検索と利用、著作権と引用、ファイルシステム、情報倫理、安全対策、ワープロ・表計算・プレゼンテーションの利用、データ・AIの社会での活用方法や留意事項などを学ぶ。	
	DS・ICT入門II	○	DS・ICT入門Iをもう1段階強化して実践的にアカデミックライティング技術やアカデミックなプレゼンテーション技術を習得する。そのために、Officeソフトを効果的に利用するためのスキルを身につける。あわせて、レポートや論文作成に必要な、大量のデータについて、基本的な分析方法を学び、表やグラフで的確に表現する方法を身につける。また資料作成に必要な文献検索の方法やインターネットの利用方法を学び、情報を効率良く検索し批判的に取捨選択し、それらを用いて生産的に自らのレポートや論文、発表資料として構成しなおす作業を、情報技術を用いて効率良く行える力を身につける。	
	DSのための数学入門		データサイエンスの中での数学として、微分積分学、線形代数、確率統計が基礎的な役割を果たす。これらの科目を学ぶ際に登場する数学の基本的な事柄について解説する。その中で登場する様々な概念に関する計算技術を習得し、具体的な問題への適用を行う。予備知識を仮定せず、文系の学生にもわかりやすく平易に解説する。	
	コンピュータ・サイエンスI		「コンピュータ・サイエンスII」と併せて受講することにより、コンピュータの基本的な仕組みを理解し、自在に使いこなすための基礎的な素養を身につける。情報処理技術の知識面の基礎を重点的に扱う。この授業では、主に、ハードウェア構成や、コンピュータ上での情報の表現方法に関する知識を学ぶ。これらの内容を、適宜実習を交えることで理解を深める。情報処理技術者試験などの情報処理関連の資格試験の基盤となる内容を広く含む。	
	コンピュータ・サイエンスII		「コンピュータ・サイエンスI」と併せて受講することにより、コンピュータの基礎的な仕組みを理解し、自在に使いこなすための基礎的な素養を身につける。情報処理技術や知識面の基礎を重点的に扱う。この授業では、主にソフトウェアに着目し、OSの仕組みや役割、プログラムの言語処理方式、アルゴリズムやネットワーク等について学ぶ。適宜実習を通して、これらの内容の理解を深める。情報処理技術者試験などの情報処理関連の資格試験の基盤となる内容を広く含む。	
	情報と社会		コンピュータを中心とする情報技術の発達が今日の社会・文化に与えている変化について、歴史的経緯とその意味を考える。コンピュータ技術そのものではなく、そのようなコンピュータのあり方を形成してきた文化的背景を取り上げる。この授業では、現在、インターネットを中心とする情報技術がどのように発展しつつあるのか、またそれがどのような社会・文化の変化をもたらしつつあるのかについて考える。また、その中で、情報コンテンツの著作権などをめぐり、情報倫理の問題がどのように提起され、どのように論じられているのかについても理解する。	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	情報と職業		情報社会における産業構造と職業構造の変化、情報関連職種への就業に必要な基礎知識、および、情報関連分野の業務内容について解説する。その上で、情報関連職種に就業することの実情を多面的に理解させることを通じて、職業適性について考え、職業人としての役割や責任を自覚することの重要性を説く。さらに、職業意識や倫理観、情報関連職種のキャリアパス、専門性の習得など、情報社会における人材育成のあり方について説く。	
	ネットワークとセキュリティ		インターネットをはじめとするコンピュータ・ネットワークについて、基本的な仕組みを理解し、実習を通じてネットワークの基本的な設定の技術を身につける。ネットワーク利用時のセキュリティについてもあわせて学習する。これらの学習は、ネットワークケーブルの作成やPCへのネットワークの設定等の実習を行うことで、より理解が深まる。自宅等のごく小規模なネットワークの構築をできるような技術を身につける。	
DS基礎	DSのための微分積分入門I		データサイエンスの基礎となる微分積分学について学ぶ。微分と積分の意味を理解して基本的な計算法に習熟し、具体的な問題に適用できるようになることを目標として、微分積分の基本事項について解説する。特に、その発見が微分積分学成立の契機をなした微分と積分の関係（微分積分学の基本定理）を理解することに重点を置く。文系の学生にもわかりやすく平易に解説する。	
	DSのための微分積分入門II		DSのための微分積分入門Iの学びを発展させ、自然や社会の現象に現れる平衡状態の記述や様々な最大最小問題などが、微分と積分の概念を用いて表現できることを学ぶ。1変数と多変数の微分と積分の基本的な計算法を習得し、具体的な問題に適用するための基礎手法を学ぶ。微分や積分を含む方程式の意味と簡単な場合の解法を理解する。DSのための微分積分入門Iで学んだ内容は既知として授業を進める。	
	DSのための線形代数入門I		データサイエンスの基礎となる線形代数学について学ぶ。高校で学んだ、平面や空間のベクトルを用いた図形の取り扱い方を発展させた考え方が「線形代数学」であり、この思考法は関連する計算技術とともに、自然科学および社会科学において広く用いられている。この思考法の具体的な表現形式である「数ベクトル空間」や「行列」を中心に、線形代数学の基本的な概念と計算技術について、予備知識を仮定せず、文系の学生にもわかりやすく平易に解説する。	
	DSのための線形代数入門II		高校で学んだ、平面や空間のベクトルを用いた図形の取り扱い方を発展させた考え方が「線形代数学」であり、この思考法に基づく計算技術は、様々なデータの取り扱いや全体的傾向の分析をはじめ、自然・社会科学的現象の分析に広く活用されている。DSのための線形代数入門Iの学びを発展させ、この「線形代数学」の計算的側面について、様々な応用例に触れつつ、距離を備えた「ベクトル空間」における基本的な計算技術の習得を中心に学ぶ。	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	DSのための確率		自然や社会における様々な現象から抽出されたデータを分析する際、統計の考え方は必要不可欠である。まず、統計学の基礎となる確率の概念を理解することから始め、確率分布、条件付き確率、独立確率変数の和の分布、大数の法則、中心極限定理などの確率の理論の概要を学ぶ。そして推定や仮説検定などの統計学の基本的な手法と、それらの応用について学ぶ。予備知識を仮定せず、文系の学生にもわかりやすく平易に解説する。	
	DSのための統計		取得した情報の分析のために、統計的データ解析の入門から応用までの講義を行う。観測データからどのようなことが推論付けられるか、またいかにして真に有効な、あるいは有益な情報を抽出することができるかを中心に解説する。統計解析ソフトとしては、普及率の高いExcelを用いる予定である。Excelを用いて、データ解析の方法（データの集計、グラフ化、統計的方法による分析）について実習を行う。	
	データ分析		DS基礎での学びを発展させ、多変量解析に関する講義を行い、データサイエンスの思考方法を習得させることを目的とする。より専門的な応用事例を取り上げ、文理融合型の研究におけるデータサイエンスの有効性と重要性を理解させるための講義を行う。	
	DS基礎		データサイエンスの手法を学ぶことに加え、文化現象を対象にデータサイエンスの手法を用いた事例を通し、文理融合型の研究におけるデータ分析の有効性と重要性を学ぶ。生活に必要なデータサイエンスと統計の基礎を身につける。	
DE基礎	Rプログラミング		コンピュータに作業させるには、プログラムを書いて実行させる必要がある。プログラムとは何か、プログラムを実行させるとはということかを、実際にR言語でプログラムを作成し、結果を確認することで理解する。特にR言語が得意とする統計解析、データ分析、可視化を中心に実習を交えた講義を行う。	
	Pythonプログラミング		コンピュータに作業させるには、プログラムを書いて実行させる必要がある。プログラムとは何か、プログラムを実行させるとはということかを、実際にプログラムを作成し、結果を確認することで理解する。どのような処理を行うプログラムを作成したいか、そのためにはどのような順序で何を書けばよいか、Pythonを用いてアルゴリズムを考えながら作成する。	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	データハンドリングの基礎		データ分析時に必要となる、データの前処理、クレンジングなど、データ処理の基本的な操作、考え方を実習を交えながら学ぶ。データの基本的な性質をデータ操作の中で体得し、統計学とその適切な活用の重要性を認識させる。コンピュータ操作、データ構造の基礎などについても解説する。	
A I 基礎	機械学習の基礎		DS基礎での学びを発展させ、機械学習の手法を学ぶ。文化現象を対象としてデータサイエンスの手法を用いた研究事例を概観することで、文理融合型の研究におけるデータサイエンスの有効性と重要性を理解する。	
早稲田大学関連科目	データ科学入門 α		データ科学はデータから新しい知見を手に入れ、これを意思決定に役立てるための総合科学であることを理解し、データ科学の考え方の基礎を修得する。データ科学の重要性やデータ分析の一連の流れを知った上で、1変量データ、2変量データの要約・パラメータ推定を題材に、データ科学において共通となる基本的な考え方を学ぶ。同一のデータであっても目的が複数存在しうることや、解析の目的による問題解決のプロセスを理解する。	
	データ科学入門 β		データ科学入門 α に引き続き、データ科学における考え方、問題設定の目的や結果の考察、実際にデータ科学を用いて解析を行うときに気を付ける点などを中心に、データ科学の基本的な手法を修得する。特に、説明変数と目的変数の関係を表す回帰・分類の問題を対象としてデータ科学の考え方を学ぶ。ここでは、説明変数と目的変数の関係を数学的に表現し、これを評価するための目的に依存する様々な基準について理解することを目的とする。	
	データ科学入門 γ		データ科学入門 β に引き続き、データ科学における考え方、問題設定の目的や結果の考察、実際にデータ科学を用いて解析を行うときに気を付ける点などを中心に、データ科学の基本的な手法を修得する。特に、多変量データの扱いを題材として重回帰分析と分類問題に焦点を当て、分析の目的に応じて適切なモデルを探索する方法を学ぶ。さらに、本講義の関連として、深層学習（ディープラーニング）の考え方やその利用方法についても理解する。	
	データ科学入門 δ		データ科学入門 γ に引き続き、データ科学における考え方、問題設定の目的や結果の考察、実際にデータ科学を用いて解析を行うときに気を付ける点などを中心に、データ科学の基本的な手法を修得する。特に、データ縮約の観点からクラスタリング及び主成分分析について学ぶ。さらにデータのサンプリングや前処理を踏まえ、データ科学の一連の流れにおける注意点を知らるとともに、より実際のデータ取り扱いや、得られた結果の妥当性の検証方法などを修得する。	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	データ科学実践		データ科学入門を通して、基本的なデータ分析の手法を修得していることを前提に、データ分析の筋道を立て、実際にデータ分析を行って結果を考察するまでの一連の流れを演習形式で学ぶ。演習では、データ分析の目的、データの種類、前提となる条件等を考慮してデータ分析の筋道を立てることと、その筋道に沿ってデータ分析を行うことを重視し、実践的な分析力を養う。多種多様かつ大量のデータの取り扱い方を理解することを目的とする。	
	回帰と分類のデータ科学		データ科学入門を通して、基本的なデータ分析の手法を修得していることを前提に、回帰・分類問題における様々な拡張の中で重要と考えられる手法を学ぶ。具体的には、パラメータに関する関数型を非線形に拡張するなど、予測精度を向上させるための考え方を学ぶ。実際のデータに対して目的を設定し、データ科学の問題設定として表現できる力、得られたデータと設定した問題に対して、適切な手法を選択する力などを養うことを目的とする。	
	時系列構造のデータ科学		データ科学入門を通して、基本的なデータ分析の手法を修得していることを前提に、変数間に順序関係が存在する数理構造およびそこから発生するデータ分析の考え方を学ぶ。順序関係を持つ数理構造の代表例として、時間的な前後関係があり、時間的な順序関係を持つデータに対する解析である時系列解析の基礎を学ぶとともに、必ずしも時間的な関係に限らない順序関係を持つデータおよびその数理構造についても理解することを目的とする。	
	潜在構造のデータ科学		データ科学入門を通して、基本的なデータ分析の手法を修得していることを前提に、連続な潜在変数から量的変数のデータへの線形変換に誤差が発生する数理構造として主成分分析や因子分析について学ぶ。また、離散的な質的潜在変数の値により異なる確率分布からデータが生成されるクラスタリングや潜在クラスモデルについて学ぶ。データの欠損、外れ値やベイズ統計学との関連などを含め、潜在構造データに対する統一的なデータ科学の考え方を修得する。	
学芸員課程科目	博物館概論		博物館は、人間と人間を取り巻く環境に関する様々な「もの」を収集し、保存・調査・研究して、公開・活用している。こうした博物館に関する基礎知識、すなわち、博物館の意義と役割について学ぶ。博物館の定義・種類・歴史、さらに博物館関係法令や博物館学の役割などを順を追って学んでゆく。	
	博物館資料論		博物館はさまざまな資料を収集し、整理・分類・調査・研究し、保存・活用している。資料の収集では、購入・寄贈・借用・採集など具体的方法を学ぶ。資料の分類・整理では、多様な資料の分類と整理、そして調査・研究を経て、目録や図録の作成と情報発信に至るまでを学ぶ。なお、資料の保存は「博物館資料保存論」で、資料の活用は「博物館展示論」で主に展開される。	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	博物館経営論		博物館を運営するための基本的な仕組みを学ぶ。博物館運営の枠組は大きくは①予算、②組織（人事）、③施設などからなり、その運営にあたっては、会社や学校などとは異なる博物館特有の問題がある。こうした点を踏まえながら博物館運営の特質を学ぶ。社会と博物館との関係の築き方については、展示はもとより、様々な関連イベント、利用者との関係づくりなど、様々な事業活動がある。博物館経営の視点からそれら事業活動の現状と課題について学ぶ。	
	博物館資料保存論		温度・湿度・照明・大気などが資料の保存にどのような影響を与えるかを学び、同時に対策を考える。同じく生物が資料に与える害と対策を学ぶ。そして、資料保存の歴史と意義、さらに資料の修復や複製品の製作、屋外の文化財の保存や災害の防止と対策などを学ぶ。	
	博物館展示論		博物館のもつ外的事業の軸となる展示活動について、①企画・立案、②資料の選択、③展示案の確定、④解説プレート・図録の作成、⑤会場の設営、⑥展示の実行、⑦関連事業、⑧広報、⑨後片付けなど、一つの展示達成のための作業を逐一詳しく学ぶ。同時に関連事業やイベントの在り方、ボランティアの活用など、市民参加の展示活動の実態についても学ぶ。	
	博物館教育論		博物館における教育の意義と理念を学ぶ。学びの場としての博物館は、実物を見ることができ、体験できることという利点をもっている。学校教育との連携や多様化しつつある教育のあり方の中で、博物館が担うべき部分の工夫と創造を模索する。	
	生涯学習論		生涯学習の意義を考えつつ、老人・主婦・サラリーマン・学生など全ての人々の学習の場のあり方を、国内外の具体例を検証し、学ぶ。また、公民館職員・図書館司書・博物館学芸員など社会教育に携わる人々の役割と使命を考える。	
	博物館情報・メディア論		博物館における情報・メディアの意義および情報発信の課題を学ぶ。併せて、さまざまな情報を掘みとること、および、視覚をはじめ人間の五感に訴える効果的・効率的な情報機器の活用法を学ぶ。これらの学習をとおして博物館の情報の提供と活用等に関する基礎的な能力を養う。	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	博物館実習 1		資料の取り扱い方に関する基本的知識・技術の習得を目標として、巻物や掛け軸遂行力を実習をとおして養う。これら個々の作業や実務は一見独立しているかに見えるが、実際には博物館活動の中では相互に関連している。こうした博物館実務の一端と相互の関連性を実習を通じて学ぶ。また、博物館運営の現状についてより深く理解するために、様々な館種の博物館見学を行い、博物館の諸業務の実態と課題を学ぶ。	
	博物館実習 2		博物館実習 1 の授業内容を踏まえ、資料の取り扱いをとおした博物館の諸事業、たとえば展示の企画立案・広報・関連事業などの諸業務の遂行力を実習をとおして養う。これら個々の作業や実務は一見独立しているかに見えるが、実際には博物館活動の中では相互に関連している。こうした博物館実務の一端と相互の関連性を実習を通じて学ぶ。また、博物館運営の現状についてより深く理解するために、様々な館種の博物館見学を行い、博物館の諸業務の実態と課題を学ぶ。	
	博物館実習 3		本授業は、①実際の博物館現場における7～10 日程度の博物館実務実習（館園実習）、②学内における事前・事後指導の授業、③個別の指導によって構成される。博物館実務の一端は「博物館実習1・2」で習得しており、この授業では実際の博物館の現場において、諸業務の実際を現場体験することで、運営実務の実践的能力を習得する。実習期間中は担当学芸員の指導を受けつつ実務を学び、実習ノートを作成して担当学芸員に提出し、その指導を受け、翌日には改善するなど積極的に学ぶようにする。学内においても実習効果を高めるため事前・事後指導の授業、個別指導を行う。	

(注)

- 1 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。
- 2 専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目であって同時に授業を行う学生数が40人を超えることを想定するものについては、その旨及び当該想定する学生数を「備考」の欄に記入すること。
- 3 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の出発定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 4 「主要授業科目」の欄は、授業科目が主要授業科目に該当する場合、欄に「○」を記入すること。なお、高等専門学校の学科を設置する場合は、「主要授業科目」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 高等専門学校の学科を設置する場合は、高等専門学校設置基準第17条第4項の規定により計算することのできる授業科目については、備考欄に「☆」を記入すること。